

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5314479号

(P5314479)

(45) 発行日 平成25年10月16日 (2013.10.16)

(24) 登録日 平成25年7月12日 (2013.7.12)

(51) Int. Cl. F I
G O 2 B 15/20 (2006.01)
G O 2 B 13/18 (2006.01)

G O 2 B 15/20
 G O 2 B 13/18

請求項の数 7 (全 40 頁)

(21) 出願番号	特願2009-90445 (P2009-90445)	(73) 特許権者	000005821
(22) 出願日	平成21年4月2日 (2009.4.2)		パナソニック株式会社
(65) 公開番号	特開2009-265653 (P2009-265653A)		大阪府門真市大字門真1006番地
(43) 公開日	平成21年11月12日 (2009.11.12)	(74) 代理人	110001276
審査請求日	平成23年12月12日 (2011.12.12)		特許業務法人 小笠原特許事務所
(31) 優先権主張番号	特願2008-96641 (P2008-96641)	(74) 代理人	100142251
(32) 優先日	平成20年4月2日 (2008.4.2)		弁理士 桑原 薫
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)	(74) 代理人	100151541
			弁理士 高田 猛二
		(72) 発明者	安達 宣幸
			大阪府門真市大字門真1006番地 パナソニック株式会社内
		(72) 発明者	内田 恒夫
			大阪府門真市大字門真1006番地 パナソニック株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】ズームレンズ系、交換レンズ装置、及びカメラシステム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

物体側から順に、
 正のパワーを有する第1レンズ群と、
 負のパワーを有する第2レンズ群と、
 後続する少なくとも2つのレンズ群とを備え、
 前記2つのレンズ群は、正のパワーを有するレンズ群Aと、その像側に配置されたレンズ群Bとを含み、

ズームングに際して、各レンズ群の間隔が変化するように、すべてのレンズ群が、光軸に沿った方向に移動し、

無限遠合焦状態から近接合焦状態までのフォーカシングに際して、前記レンズ群Bが、光軸に沿った方向に移動し、

ズームレンズ系の振動に起因する像ぶれ補正に際して、前記レンズ群Aの物体側に配置されたレンズ群全体又はレンズ群の像側の一部のサブレンズ群のいずれかが、光軸に直交する方向に移動し、

以下の条件を満足する、ズームレンズ系：

$$0.10 < |f_{BAK} / f_F| / (f_T / f_W) < 15.0 \quad \dots (1)$$

(ただし、 $f_T / f_W > 4$ 、 $W < 20^\circ$)

ここで、

f_{BAK} ：フォーカシングレンズ群よりも像側に配置されるレンズ群の広角端での合成焦点

距離、

f_F ：フォーカシングレンズ群の焦点距離、

f_T ：全系の望遠端での焦点距離、

f_W ：全系の広角端での焦点距離、

ω ：広角端での半画角、

である。

【請求項 2】

ズームレンズ系の振動に起因する像ぶれ補正に際して、光軸に直交する方向に移動するレンズ群は、全体として負のパワーを有する、請求項 1 に記載のズームレンズ系。

【請求項 3】

以下の条件を満足する、請求項 1 に記載のズームレンズ系：

$$0.10 \text{ mm}^{-1} < |f_{\text{BAK}} / f_F| / f_W < 15.0 \text{ mm}^{-1} \quad \dots (2)$$

(ただし、 $f_T / f_W > 4$)

ここで、

f_{BAK} ：フォーカシングレンズ群よりも像側に配置されるレンズ群の広角端での合成焦点距離、

f_F ：フォーカシングレンズ群の焦点距離、

f_W ：全系の広角端での焦点距離、

である。

【請求項 4】

以下の条件を満足する、請求項 1 に記載のズームレンズ系：

$$0.3 < |f_F / f_{of}| < 6.0 \quad \dots (3)$$

ここで、

f_F ：フォーカシングレンズ群の焦点距離、

f_{of} ：像ぶれ補正レンズ群からフォーカシングレンズ群までのレンズ群の広角端における合成焦点距離、

である。

【請求項 5】

以下の条件を満足する、請求項 1 に記載のズームレンズ系：

$$0.5 < |f_o / f_W| < 2.8 \quad \dots (4)$$

(ただし、 $f_T / f_W > 4$)

ここで、

f_o ：像ぶれ補正レンズ群の焦点距離、

f_T ：全系の望遠端での焦点距離、

f_W ：全系の広角端での焦点距離、

である。

【請求項 6】

請求項 1 に記載のズームレンズ系と、

前記ズームレンズ系が形成する光学像を受光して、電気的な画像信号に変換する撮像センサを含むカメラ本体と接続されるレンズマウント部とを備える、交換レンズ装置。

【請求項 7】

請求項 1 に記載のズームレンズ系を含む交換レンズ装置と、

前記交換レンズ装置とカメラマウント部を介して着脱可能に接続され、前記ズームレンズ系が形成する光学像を受光して、電気的な画像信号に変換する撮像センサを含むカメラ本体とを備える、カメラシステム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ズームレンズ系、詳しくは、いわゆるレンズ交換式デジタルカメラシステム（以下、単に「カメラシステム」ともいう）の交換レンズ装置に用いられる撮像レンズ系

10

20

30

40

50

として好適なズームレンズ系に関する。また、本発明は、上記ズームレンズ系を内蔵した交換レンズ装置、及びカメラシステムに関する。

【背景技術】

【0002】

CCD (Charge Coupled Device)、CMOS (Complementary Metal-Oxide Semiconductor) などの撮像素子を持つカメラ本体と、撮像素子の受光面に光学像を形成するための撮像光学系を備えた交換レンズ装置とを備え、撮像レンズ系をカメラ本体から着脱可能にしたレンズ交換式デジタルカメラシステムの市場が急速に拡大している。このような交換レンズ装置は、光学像を変倍可能に形成できるズームレンズ系を搭載したものに人気がある。

10

【0003】

ズームレンズ系のうち、特に、望遠系のズームレンズ系は、望遠端の焦点距離が長いことから、光学全長（最も物体側のレンズ面の頂点から像面までの距離）が長くなりやすい。そのため、最も物体側に正のパワーのレンズ群を配置し、最も像側に負のパワーのレンズ群を配置することにより、望遠端における光学全長が望遠端の焦点距離より短くなるようにした構成が多い。

【0004】

望遠系のズームレンズ系において、諸収差を小さくするために、レンズ群数を多くした構成が提案されており、例えば、正負負正負の5つのレンズ群を用いた構成がある（例えば、特許文献1）。また、望遠系のズームレンズ系では、望遠端の焦点距離が長いために、振動による像ぶれが発生しやすい。そこで、レンズ系全体の姿勢変化に対応させて一部のレンズ群（像ぶれ補正レンズ群）を光軸と垂直な方向に平行移動させる方式が提案されている（例えば、特許文献2、3、4、5）。

20

【0005】

特許文献2、3、4の望遠ズームレンズは、いずれも物体側から順に正負負正負の5つのレンズ群で構成され、特許文献5の望遠ズームレンズは物体側から順に正負負正負または正負正正負の5つのレンズ群で構成されている。いずれも、5つのレンズ群のうちの1つのレンズ群を光軸と垂直な方向に平行移動させることにより、像ぶれ補正を行うようにしている。各レンズ群を物体側から順に第1レンズ群、第2レンズ群、第5レンズ群と呼ぶことにすると、特許文献2の望遠ズームレンズは第3レンズ群を、特許文献3の望遠ズームレンズは第2レンズ群を、特許文献4の望遠ズームレンズは第4レンズ群を、特許文献5の望遠ズームレンズは第2レンズ群の一部を、光軸と垂直な方向に平行移動させている。

30

【0006】

望遠ズームレンズのフォーカシングは最も物体側の第1レンズ群を移動させる方式が一般的であった。第1群の移動によるフォーカシング方式は、第1レンズ群が大きく重いために、高速オートフォーカスができないという問題がある。この問題を解決するために、特許文献5の望遠ズームレンズでは、第4レンズ群を光軸方向に移動させることにより、無限遠から近距離へのフォーカシングが提案されている。

40

【特許文献1】特許第3134448号公報

【特許文献2】特開平6-123836号公報

【特許文献3】特許第3395169号公報

【特許文献4】特開平6-130330号公報

【特許文献5】特開平11-202201号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

レンズ交換式デジタルカメラシステムでは、静止画だけでなく、動画の撮影も要望されるようになった。動画を撮影する場合、オートフォーカスを高速で連続して行う必要がある。

50

【 0 0 0 8 】

オートフォーカスを高速で連続して行うには、一部のレンズ群（フォーカスレンズ群）を光軸方向に高速で振動させて（ウォブリング）、非合焦状態 合焦状態 非合焦状態を作り出し、撮像素子の出力信号から一部画像領域のある周波数帯の信号成分を検出して、合焦状態となるフォーカスレンズ群の最適位置を求め、その最適位置にフォーカスレンズ群を移動させ、この一連の動作を繰り返す方法が考えられる。動画の表示は、フリッカなど違和感を生じないようにするために、例えば30フレーム/秒の高速で行う必要があり、撮影も基本的には同じ30フレーム/秒で行う必要がある。そのため、動画でオートフォーカスを行うには、フォーカスレンズ群を30Hzの高速で連続してウォブリングさせる必要がある。

10

【 0 0 0 9 】

上記のようなウォブリングを導入する場合、ウォブリング時に被写体に対応する画像の大きさが変化することに注意する必要がある。これは、主に、フォーカスレンズ群の光軸方向への移動によりレンズ系全体の焦点距離が変化することに起因するものである。ウォブリングによる撮影倍率の変化が大きい場合には違和感を生じることになる。

【 0 0 1 0 】

以上のことを考えると、鏡筒の最大径を小さくするには、像ぶれ補正レンズ群とフォーカスレンズ群を極力軽くする必要があり、そのためには、像ぶれ補正レンズ群とフォーカスレンズ群を構成する各レンズ素子の外径を極力小さくし、各レンズ群の重量を極力軽くする必要がある。以上の観点から、前述の特許文献を見ると、次のように、それぞれ問題のあることが分かる。

20

【 0 0 1 1 】

例えば、特許文献1～4のズームレンズ系は、像ぶれ補正について何ら言及していない。また、特許文献5のズームレンズ系は、フォーカシングのために移動する第4レンズ群も3枚または4枚のレンズで構成されていることから、重量が重い。そのために、第4レンズ群を移動させるモータやアクチュエータが大きくなるという問題がある。

【 0 0 1 2 】

本発明は、上記課題に鑑み、像ぶれ補正機能を搭載し、結像特性が良好でコンパクトなズームレンズ系、またそのズームレンズ系を用いたカメラシステムを提供することを目的とする。

30

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 3 】

本発明に係るズームレンズ系は、物体側から順に、正のパワーを有する第1レンズ群と、負のパワーを有する第2レンズ群と、後続する少なくとも2つのレンズ群とを備え、前記2つのレンズ群は、正のパワーを有するレンズ群Aと、その像側に配置されたレンズ群Bとを含み、ズーミングに際して、各レンズ群の間隔が変化するように、すべてのレンズ群が、光軸に沿った方向に移動し、無限遠合焦状態から近接合焦状態までのフォーカシングに際して、前記レンズ群Bが、光軸に沿った方向に移動し、ズームレンズ系の振動に起因する像ぶれ補正に際して、前記レンズ群Aの物体側に配置されたレンズ群全体又はレンズ群の像側の一部のサブレンズ群のいずれかが、光軸に直交する方向に移動し、以下の条件を満足する。

40

$$0.10 < |f_{BAK} / f_F| / (f_T / f_W) < 15.0 \quad \cdots (1)$$

（ただし、 $f_T / f_W > 4$ 、 $\omega < 20^\circ$ ）

ここで、

f_{BAK} ：フォーカシングレンズ群よりも像側に配置されるレンズ群の広角端での合成焦点距離、

f_F ：フォーカシングレンズ群の焦点距離、

f_T ：全系の望遠端での焦点距離、

f_W ：全系の広角端での焦点距離、

ω ：広角端での半画角、

50

である。

【 0 0 1 4 】

また、本発明に係る交換レンズ装置は、上記のズームレンズ系と、ズームレンズ系が形成する光学像を受光して、電気的な画像信号に変換する撮像センサを含むカメラ本体と接続されるレンズマウント部とを備える。

【 0 0 1 5 】

更に、本発明に係るカメラシステムは、上記のズームレンズ系を含む交換レンズ装置と、交換レンズ装置とカメラマウント部を介して着脱可能に接続され、ズームレンズ系が形成する光学像を受光して、電気的な画像信号に変換する撮像センサを含むカメラ本体とを備える。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 6 】

本発明によれば、フォーカシングレンズ群がコンパクトでフォーカシングレンズ群移動時の像倍率変化の小さいズームレンズ系、ズームレンズ系を有する交換レンズ装置、及びカメラシステムを提供することができる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 7 】

図 1、5、9、13、17、21、25、29 は、いずれも無限遠合焦状態にあるズームレンズ系を表している。

【 0 0 1 8 】

各図において、(a) 図は広角端 (最短焦点距離状態 : 焦点距離 f_W) のレンズ構成、(b) 図は、中間位置 (中間焦点距離状態 : 焦点距離 $f_M = (f_W * f_T)$) のレンズ構成、(c) 図は望遠端 (最長焦点距離状態 : 焦点距離 f_T) のレンズ構成をそれぞれ表している。また各図において、(a) 図と (b) 図との間に設けられた折れ線の矢印は、上から順に、広角端、中間位置、望遠端の各状態におけるレンズ群の位置を結んで得られる直線である。広角端と中間位置との間、中間位置と望遠端との間は、単純に直線で接続されているだけであり、実際の各レンズ群の動きとは異なる。更に各図において、レンズ群に付された矢印は、無限遠合焦状態から近接物体合焦状態へのフォーカシングを表す。すなわち、無限遠合焦状態から近接物体合焦状態へのフォーカシングの際の移動方向を示している。

【 0 0 1 9 】

図 1、5、9、13、17、21、25、29 において、特定の面に付されたアスタリスク * は、該面が非球面であることを示している。また各図において、各レンズ群の符号に付された記号 (+) 及び記号 (-) は、各レンズ群のパワーの符号に対応する。更に各図において、最も右側に記載された直線は、像面 S の位置を表す。

【 0 0 2 0 】

(実施の形態 1)

実施の形態 1 に係るズームレンズ系は、物体側から像側へと順に、正のパワーを有する第 1 レンズ群 G 1 と、負のパワーを有する第 2 レンズ群 G 2 と、負のパワーを有する第 3 レンズ群 G 3 と、正のパワーを有する第 4 レンズ群 G 4 と、負のパワーを有する第 5 A レンズ群 G 5 A と、正のパワーを有する第 5 B レンズ群 G 5 B とを備える。

【 0 0 2 1 】

第 1 レンズ群 G 1 は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 1 レンズ素子 L 1 と、両凸形状の第 2 レンズ素子 L 2 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 3 レンズ素子 L 3 とからなる。第 1 レンズ素子 L 1 と第 2 レンズ素子 L 2 とは、互いに接合されている。

【 0 0 2 2 】

第 2 レンズ群 G 2 は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 4 レンズ素子 L 4 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 5 レンズ素子 L 5 とからなる。

【 0 0 2 3 】

第3レンズ群G3は、両凹形状の第6レンズ素子L6と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第7レンズ素子L7からなる。

【 0 0 2 4 】

第4レンズ群G4は、物体側に凹面を向けた正メニスカス形状の第8レンズ素子L8と、両凸形状の第9レンズ素子L9と、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第10レンズ素子L10と、両凸形状の第11レンズ素子L11と、両凸形状の第12レンズ素子L12と、物体側に凹面を向けた負メニスカス形状の第13レンズ素子L13からなる。第10レンズ素子と第11レンズ素子L11とは、互いに接合されている。また、第12レンズ素子L12と第13レンズ素子L13は、互いに接合されている。

10

【 0 0 2 5 】

第5Aレンズ群G5Aは、像側に凹面を向けた負メニスカス形状の第14レンズ素子L14からなる。

【 0 0 2 6 】

第5Bレンズ群G5Bは、両凸形状の第15レンズ素子L15と、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第16レンズ素子L16からなる。

【 0 0 2 7 】

広角端から望遠端へのズーミング時には、各レンズ群は、それぞれ光軸に沿った方向に移動する。

【 0 0 2 8 】

開口絞りAは、第3レンズ群G3と第4レンズ群G4と間に配置され、第3レンズ群G3と共に移動する。

20

【 0 0 2 9 】

また、無限遠合焦状態から近接合焦状態へのフォーカシング時には、第5Aレンズ群G5Aが光軸に沿って像側へと移動する。

【 0 0 3 0 】

更に、系全体に加わる振動に起因する像ぶれを補正するために、第3レンズ群G3が光軸と直交する方向に移動する。

【 0 0 3 1 】

なお、最も像側に配置された平板L15は、ローパスフィルタやフェースプレートに対応する。

30

【 0 0 3 2 】

(実施の形態2)

実施の形態2に係るズームレンズ系は、物体側から像側へと順に、正のパワーを有する第1レンズ群G1と、負のパワーを有する第2レンズ群G2と、負のパワーを有する第3レンズ群G3と、正のパワーを有する第4レンズ群G4と、負のパワーを有する第5レンズ群G5と、正のパワーを有する第5Bレンズ群G5Bとを備える。

【 0 0 3 3 】

第1レンズ群G1は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第1レンズ素子L1と、両凸形状の第2レンズ素子L2と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第3レンズ素子L3とからなる。第1レンズ素子L1と第2レンズ素子L2とは、互いに接合されている。

40

【 0 0 3 4 】

第2レンズ群G2は、物体側から像側へと順に、両凹形状の第4レンズ素子L4と、両凸形状の第5レンズ素子L5とからなる。

【 0 0 3 5 】

第3レンズ群G3は、両凹形状の第6レンズ素子L6と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第7レンズ素子L7からなる。

【 0 0 3 6 】

第4レンズ群G4は、物体側に凹面を向けた正メニスカス形状の第8レンズ素子L8と

50

、両凸形状の第9レンズ素子L9と、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第10レンズ素子L10と、両凸形状の第11レンズ素子L11と、両凸形状の第12レンズ素子L12からなる。

【0037】

第5Aレンズ群G5Aは、両凹形状の第13レンズ素子L13からなる。

【0038】

第5Bレンズ群G5Bは、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第14レンズ素子L14からなる。

【0039】

広角端から望遠端へのズーミング時には、各レンズ群は、それぞれ光軸に沿った方向に移動する。

10

【0040】

開口絞りAは、第3レンズ群G3と第4レンズ群G4と間に配置され、第3レンズ群G3と共に移動する。

【0041】

また、無限遠合焦状態から近接合焦状態へのフォーカシング時には、第5Aレンズ群G5Aが光軸に沿って像側へと移動する。

【0042】

更に、系全体に加わる振動に起因する像ぶれを補正するために、第3レンズ群G3が光軸と直交する方向に移動する。

20

【0043】

なお、最も像側に配置された平板L15は、ローパスフィルタやフェースプレートに対応する。

【0044】

(実施の形態3)

実施の形態3に係るズームレンズ系は、物体側から像側へと順に、正のパワーを有する第1レンズ群G1と、負のパワーを有する第2レンズ群G2と、負のパワーを有する第3レンズ群G3と、正のパワーを有する第4レンズ群G4と、正のパワーを有する第5Aレンズ群G5Aと、負のパワーを有する第5Bレンズ群G5Bとを備える。

【0045】

30

第1レンズ群G1は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第1レンズ素子L1と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第2レンズ素子L2と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第3レンズ素子L3とからなる。第1レンズ素子L1と第2レンズ素子L2とは、互いに接合されている。

【0046】

第2レンズ群G2は、物体側から像側へと順に、両凹形状の第4レンズ素子L4と、両凸形状の第5レンズ素子L5とからなる。

【0047】

第3レンズ群G3は、両凹形状の第6レンズ素子L6と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第7レンズ素子L7からなる。第6レンズ素子L6と第7レンズ素子L7とは、互いに接合されている。

40

【0048】

第4レンズ群G4は、両凸形状の第8レンズ素子L8と、両凸形状の第9レンズ素子L9と、物体側に凹面を向けた負メニスカス形状の第10レンズ素子L10からなる。第9レンズ素子L9と第10レンズ素子L10とは、互いに接合されている。

【0049】

第5Aレンズ群G5Aは、物体側に凹面を向けた正メニスカス形状の第11レンズ素子L11と、両凸形状の第12レンズ素子L12からなる。

【0050】

第5Bレンズ群G5Bは、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第13レンズ素子

50

L 1 3 からなる。

【 0 0 5 1 】

広角端から望遠端へのズーミング時には、各レンズ群は、それぞれ光軸に沿った方向に移動する。

【 0 0 5 2 】

開口絞り A は、第 3 レンズ群 G 3 と第 4 レンズ群 G 4 と間に配置され、第 3 レンズ群 G 3 と共に移動する。

【 0 0 5 3 】

また、無限遠合焦状態から近接合焦状態へのフォーカシング時には、第 5 A レンズ群 G 5 A が光軸に沿って物体側へと移動する。

10

【 0 0 5 4 】

更に、系全体に加わる振動に起因する像ぶれを補正するために、第 3 レンズ群 G 3 が光軸と直交する方向に移動する。

【 0 0 5 5 】

なお、最も像側に配置された平面板 L 1 4 は、ローパスフィルタやフェースプレートに対応する。

【 0 0 5 6 】

(実施の形態 4)

実施の形態 4 に係るズームレンズ系は、物体側から像側へと順に、正のパワーを有する第 1 レンズ群 G 1 と、負のパワーを有する第 2 レンズ群 G 2 と、正のパワーを有する第 3 レンズ群 G 3 と、正のパワーを有する第 4 レンズ群 G 4 と、負のパワーを有する第 5 レンズ群 G 5 とを備える。

20

【 0 0 5 7 】

第 1 レンズ群 G 1 は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 1 レンズ素子 L 1 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 2 レンズ素子 L 2 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 3 レンズ素子 L 3 とからなる。第 1 レンズ素子 L 1 と第 2 レンズ素子 L 2 とは、互いに接合されている。

【 0 0 5 8 】

第 2 レンズ群 G 2 は、物体側から像側へと順に、両凹形状の第 4 レンズ素子 L 4 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 5 レンズ素子 L 5 と、両凹形状の第 6 レンズ素子 L 6 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 7 レンズ素子 L 7 からなる。第 4 レンズ素子 L 4 と第 5 レンズ素子 L 5 とは、互いに接合されている。第 6 レンズ素子 L 6 と第 7 レンズ素子 L 7 とは、互いに接合されている。

30

【 0 0 5 9 】

第 3 レンズ群 G 3 は、両凸形状の第 8 レンズ素子 L 8 と、両凸形状の第 9 レンズ素子 L 9 と、物体側に凹面を向けた負メニスカス形状の第 10 レンズ素子 L 10 からなる。第 9 レンズ素子 L 9 と第 10 レンズ素子 L 10 とは、互いに接合されている。

【 0 0 6 0 】

第 4 レンズ群 G 4 は、両凸形状の第 11 レンズ素子 L 11 と、両凸形状の第 12 レンズ素子 L 12 からなる。

40

【 0 0 6 1 】

第 5 レンズ群 G 5 は、両凹形状の第 13 レンズ素子 L 13 からなる。

【 0 0 6 2 】

広角端から望遠端へのズーミング時には、各レンズ群は、それぞれ光軸に沿った方向に移動する。

【 0 0 6 3 】

開口絞り A は、第 2 レンズ群 G 2 と第 3 レンズ群 G 3 と間に配置され、第 2 レンズ群 G 2 と共に移動する。

【 0 0 6 4 】

また、無限遠合焦状態から近接合焦状態へのフォーカシング時には、第 4 レンズ群 G 4

50

が光軸に沿って物体側へと移動する。

【 0 0 6 5 】

更に、系全体に加わる振動に起因する像ぶれを補正するために、第 2 レンズ群 G 2 の第 6 レンズ素子 L 6 と第 7 レンズ素子 L 7 とを接合した接合レンズ素子が光軸と直交する方向に移動する。

【 0 0 6 6 】

なお、最も像側に配置された平面板 L 1 4 は、ローパスフィルタやフェースプレートに対応する。

【 0 0 6 7 】

(実施の形態 5)

実施の形態 5 に係るズームレンズ系は、物体側から像側へと順に、正のパワーを有する第 1 レンズ群 G 1 と、負のパワーを有する第 2 レンズ群 G 2 と、正のパワーを有する第 3 レンズ群 G 3 と、負のパワーを有する第 4 A レンズ群 G 4 A と、正のパワーを有する第 4 B レンズ群 G 4 B とを備える。

【 0 0 6 8 】

第 1 レンズ群 G 1 は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 1 レンズ素子 L 1 と、両凸形状の第 2 レンズ素子 L 2 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 3 レンズ素子 L 3 とからなる。第 1 レンズ素子 L 1 と第 2 レンズ素子 L 2 とは、互いに接合されている。

【 0 0 6 9 】

第 2 レンズ群 G 2 は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 4 レンズ素子 L 4 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 5 レンズ素子 L 5 と、両凹形状の第 6 レンズ素子 L 6 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 7 レンズ素子 L 7 からなる。

【 0 0 7 0 】

第 3 レンズ群 G 3 は、像側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 8 レンズ素子 L 8 と、像側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 9 レンズ素子 L 9 と、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 1 0 レンズ素子 L 1 0 と、両凸形状の第 1 1 レンズ素子 L 1 1 と、両凸形状の第 1 2 レンズ素子 L 1 2 と、像側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 1 3 レンズ素子 L 1 3 とからなる。第 1 0 レンズ素子 L 1 0 と第 1 1 レンズ素子 L 1 1 とは、互いに接合されている。第 1 2 レンズ素子 L 1 2 と第 1 3 レンズ素子 L 1 3 とは、互いに接合されている。

【 0 0 7 1 】

第 4 A レンズ群 G 4 A は、両凹形状の第 1 4 レンズ素子 L 1 4 からなる。

【 0 0 7 2 】

第 4 B レンズ群 G 4 B は、両凸形状の第 1 5 レンズ素子 L 1 2 と、物体側に凸面を向けた第 1 6 レンズ素子 L 1 6 からなる。

【 0 0 7 3 】

広角端から望遠端へのズーミング時には、各レンズ群は、それぞれ光軸に沿った方向に移動する。

【 0 0 7 4 】

開口絞り A は、第 2 レンズ群 G 2 と第 3 レンズ群 G 3 と間に配置され、第 2 レンズ群 G 2 と共に移動する。

【 0 0 7 5 】

また、無限遠合焦状態から近接合焦状態へのフォーカシング時には、第 4 A レンズ群 G 4 A が光軸に沿って像側へと移動する。

【 0 0 7 6 】

更に、系全体に加わる振動に起因する像ぶれを補正するために、第 2 レンズ群 G 2 の第 6 レンズ素子 L 6 と第 7 レンズ素子 L 7 とを接合した接合レンズ素子が光軸と直交する方向に移動する。

10

20

30

40

50

【 0 0 7 7 】

なお、最も像側に配置された平面板 L 1 7 は、ローパスフィルタやフェースプレートに対応する。

【 0 0 7 8 】

(実施の形態 6)

実施の形態 6 に係るズームレンズ系は、物体側から像側へと順に、正のパワーを有する第 1 レンズ群 G 1 と、負のパワーを有する第 2 レンズ群 G 2 と、正のパワーを有する第 3 レンズ群 G 3 と、正のパワーを有する第 4 レンズ群 G 4 と、負のパワーを有する第 5 レンズ群 G 5 とを備える。

【 0 0 7 9 】

第 1 レンズ群 G 1 は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 1 レンズ素子 L 1 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 2 レンズ素子 L 2 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 3 レンズ素子 L 3 とからなる。第 1 レンズ素子 L 1 と第 2 レンズ素子 L 2 とは、互いに接合されている。

【 0 0 8 0 】

第 2 レンズ群 G 2 は、物体側から像側へと順に、両凹形状の第 4 レンズ素子 L 4 と、両凸形状の第 5 レンズ素子 L 5 と、両凹形状の第 6 レンズ素子 L 6 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 7 レンズ素子 L 7 からなる。第 4 レンズ素子 L 4 と第 5 レンズ素子 L 5 とは、互いに接合されている。第 6 レンズ素子 L 6 と第 7 レンズ素子 L 7 とは、互いに接合されている。

【 0 0 8 1 】

第 3 レンズ群 G 3 は、両凸形状の第 8 レンズ素子 L 8 と、両凸形状の第 9 レンズ素子 L 9 と、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 10 レンズ素子 L 10 からなる。第 9 レンズ素子 L 9 と第 10 レンズ素子 L 10 とは、互いに接合されている。

【 0 0 8 2 】

第 4 レンズ群 G 4 は、物体側に凹面を向けた正メニスカス形状の第 11 レンズ素子 L 11 と、像側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 12 レンズ素子 L 12 と、両凸形状の第 13 レンズ素子 L 13 からなる。

【 0 0 8 3 】

第 5 レンズ群 G 5 は、両凹形状の第 14 レンズ素子 L 14 からなる。

【 0 0 8 4 】

広角端から望遠端へのズーミング時には、各レンズ群は、それぞれ光軸に沿った方向に移動する。

【 0 0 8 5 】

開口絞り A は、第 2 レンズ群 G 2 と第 3 レンズ群 G 3 と間に配置され、第 3 レンズ群 G 3 と共に移動する。

【 0 0 8 6 】

また、無限遠合焦状態から近接合焦状態へのフォーカシング時には、第 4 レンズ群 G 4 が光軸に沿って物体側へと移動する。

【 0 0 8 7 】

更に、系全体に加わる振動に起因する像ぶれを補正するために、第 2 レンズ群 G 2 の第 6 レンズ素子 L 6 と第 7 レンズ素子 L 7 とを接合した接合レンズ素子が光軸と直交する方向に移動する。

【 0 0 8 8 】

なお、最も像側に配置された平面板 L 1 5 は、ローパスフィルタやフェースプレートに対応する。

【 0 0 8 9 】

(実施の形態 7)

実施の形態 7 に係るズームレンズ系は、物体側から像側へと順に、正のパワーを有する第 1 レンズ群 G 1 と、負のパワーを有する第 2 レンズ群 G 2 と、正のパワーを有する第 3

10

20

30

40

50

レンズ群 G 3 と、負のパワーを有する第 4 レンズ群 G 4 と、正のパワーを有する第 4 A レンズ群 G 4 A と、負のパワーを有する第 5 レンズ群 G 5 とを備える。

【 0 0 9 0 】

第 1 レンズ群 G 1 は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 1 レンズ素子 L 1 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 2 レンズ素子 L 2 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 3 レンズ素子 L 3 とからなる。第 1 レンズ素子 L 1 と第 2 レンズ素子 L 2 とは、互いに接合されている。

【 0 0 9 1 】

第 2 レンズ群 G 2 は、物体側から像側へと順に、両凹形状の第 4 レンズ素子 L 4 と、両凸形状の第 5 レンズ素子 L 5 と、両凹形状の第 6 レンズ素子 L 6 と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第 7 レンズ素子 L 7 からなる。第 4 レンズ素子 L 4 と第 5 レンズ素子 L 5 とは、互いに接合されている。第 6 レンズ素子 L 6 と第 7 レンズ素子 L 7 とは、互いに接合されている。

10

【 0 0 9 2 】

第 3 レンズ群 G 3 は、両凸形状の第 8 レンズ素子 L 8 と、両凸形状の第 9 レンズ素子 L 9 と、物体側に凹面を向けた負メニスカス形状の第 10 レンズ素子 L 10 からなる。第 9 レンズ素子 L 9 と第 10 レンズ素子 L 10 とは、互いに接合されている。

【 0 0 9 3 】

第 4 レンズ群 G 4 は、両凸形状の第 11 レンズ素子 L 11 と、両凹形状の第 12 レンズ素子 L 12 からなる。第 11 レンズ素子 L 11 と第 12 レンズ素子 L 12 とは、互いに接合されている。

20

【 0 0 9 4 】

第 4 A レンズ群 G 4 A は、両凸形状の第 13 レンズ素子 L 13 からなる。

【 0 0 9 5 】

第 5 レンズ群 G 5 は、両凹形状の第 14 レンズ素子 L 14 からなる。

【 0 0 9 6 】

広角端から望遠端へのズーミング時には、各レンズ群は、それぞれ光軸に沿った方向に移動する。

【 0 0 9 7 】

開口絞り A は、第 2 レンズ群 G 2 と第 3 レンズ群 G 3 と間に配置され、第 3 レンズ群 G 3 と共に移動する。

30

【 0 0 9 8 】

また、無限遠合焦状態から近接合焦状態へのフォーカシング時には、第 4 レンズ群 G 4 が光軸に沿って像側へと移動する。

【 0 0 9 9 】

更に、系全体に加わる振動に起因する像ぶれを補正するために、第 2 レンズ群 G 2 の第 6 レンズ素子 L 6 と第 7 レンズ素子 L 7 とを接合した接合レンズ素子が光軸と直交する方向に移動する。

【 0 1 0 0 】

なお、最も像側に配置された平板 L 15 は、ローパスフィルタやフェースプレートに対応する。

40

【 0 1 0 1 】

(実施の形態 8)

実施の形態 8 に係るズームレンズ系は、物体側から像側へと順に、正のパワーを有する第 1 レンズ群 G 1 と、負のパワーを有する第 2 レンズ群 G 2 と、負のパワーを有する第 3 レンズ群 G 3 と、正のパワーを有する第 4 レンズ群 G 4 と、負のパワーを有する第 5 A レンズ群 G 5 A と、負のパワーを有する第 5 B レンズ群 G 5 B とを備える。

【 0 1 0 2 】

第 1 レンズ群 G 1 は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第 1 レンズ素子 L 1 と、両凸形状の第 2 レンズ素子 L 2 と、物体側に凸面を向けた正

50

メニスカス形状の第3レンズ素子L3とからなる。第1レンズ素子L1と第2レンズ素子L2とは、互いに接合されている。

【0103】

第2レンズ群G2は、物体側から像側へと順に、物体側に凸面を向けた第4レンズ素子L4と、両凹形状の第5レンズ素子L5と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第6レンズ素子L6からなる。

【0104】

第3レンズ群G3は、物体側から像側へと順に、物体側に凹面を向けた正メニスカス形状の第7レンズ素子L7と、両凹形状の第8レンズ素子L8と、物体側に凸面を向けた性メニスカス形状の第9レンズ素子L9とからなる。第8レンズ素子L8と第9レンズ素子L9とは、互いに接合されている。

10

【0105】

第4レンズ群G4は、物体側から像側へと順に、両凸形状の第10レンズ素子L10と、両凸形状の第11レンズ素子L11と、両凹形状の第12レンズ素子L12と、両凸形状の第13レンズ素子L13と、物体側に凸面を向けた負メニスカス形状の第14レンズ素子L14と、両凸形状の第15レンズ素子L15からなる。第14レンズ素子L14と第15レンズ素子L15とは、互いに接合されている。

【0106】

第5Aレンズ群G5Aは、物体側から像側へと順に、物体側に凹面を向けた正メニスカス形状の第16レンズ素子と、像側に凸面を向けた負メニスカス形状の第17レンズ素子からなる。第16レンズ素子L16と第17レンズ素子L17とは、互いに接合されている。

20

【0107】

第5Bレンズ群G5Bは、物体側から像側へと順に、両凸形状の第18レンズ素子L18と、像側に凸面を向けた負メニスカス形状の第19レンズ素子L19と、物体側に凸面を向けた正メニスカス形状の第20レンズ素子L20からなる。

【0108】

広角端から望遠端へのズーミング時には、各レンズ群は、それぞれ光軸に沿った方向に移動する。

【0109】

開口絞りAは、第3レンズ群G3と第4レンズ群G4と間に配置され、第4レンズ群G4と共に移動する。

30

【0110】

また、無限遠合焦状態から近接合焦状態へのフォーカシング時には、第5レンズ群G5が光軸に沿って像側へと移動する。

【0111】

更に、系全体に加わる振動に起因する像ぶれを補正するために、第3レンズ群G3が光軸と直交する方向に移動する。

【0112】

なお、最も像側に配置された平板L21は、ローパスフィルタやフェースプレートに対応する。

40

【0113】

以下、各実施の形態に係るズームレンズ系が満足すべき条件を説明する。なお、各実施の形態に係るズームレンズ系において、複数の満足すべき条件が規定されるが、適合する条件をできるだけ多く満足するズームレンズ系の構成が最も望ましい。しかしながら、個別の条件を満足することにより、それぞれ対応する効果を奏するズームレンズ系を得ることも可能である。

【0114】

各実施の形態のズームレンズ系のうち、望遠系のズームレンズ系でフォーカシングレンズ群が最像側にない構成である実施の形態のズームレンズ系は、以下の条件を満足するこ

50

とが望ましい。

$$0.10 < |f_{\text{BAK}} / f_F| / (f_T / f_W) < 15.0 \quad \dots (1)$$

(ただし、 $f_T / f_W > 4$ 、 $\omega < 20^\circ$)

ここで、

f_{BAK} ：フォーカシングレンズ群よりも像側に配置されるレンズ群の広角端での合成焦点距離、

f_F ：フォーカシングレンズ群の焦点距離、

f_T ：全系の望遠端での焦点距離、

f_W ：全系の広角端での焦点距離、

ω ：広角端での半画角、

である。

【0115】

条件(1)は、フォーカシングレンズ群と後続するレンズ群との焦点距離に関する条件である。条件(1)の上限を上回ると、フォーカシングレンズ群より像側に配置されるレンズ群の焦点距離が大きくなり過ぎ、全長が増大してコンパクトなズームレンズ系を実現することが困難になる。逆に、条件(1)の下限を下回ると、フォーカシングレンズ群の焦点距離と比較してフォーカシングレンズ群より像側に配置されるレンズ群の焦点距離が短くなり、フォーカシングにより発生する収差変動を後続群で補正することが困難になり好ましくない。

【0116】

各実施の形態のズームレンズ系のうち、望遠系のズームレンズ系でフォーカシングレンズ群が最像側にない構成である実施の形態のズームレンズ系は、以下の条件を満足することが望ましい。

$$0.10 \text{ mm}^{-1} < |f_{\text{BAK}} / f_F| / f_W < 15.0 \text{ mm}^{-1} \quad \dots (2)$$

(ただし、 $f_T / f_W > 4$)

ここで、

f_{BAK} ：フォーカシングレンズ群よりも像側に配置されるレンズ群の広角端での合成焦点距離、

f_F ：フォーカシングレンズ群の焦点距離、

f_W ：全系の広角端での焦点距離、

である。

【0117】

条件(2)は、フォーカシングレンズ群と後続するレンズ群との焦点距離に関する条件である。条件(2)の上限を上回ると、フォーカシングレンズ群より像側に配置されるレンズ群の焦点距離が大きくなり過ぎ、全長が増大してコンパクトなズームレンズ系を実現することが困難になる。逆に、条件(2)の下限を下回ると、フォーカシングレンズ群の焦点距離と比較してフォーカシングレンズ群より像側に配置されるレンズ群の焦点距離が短くなり、フォーカシングにより発生する収差変動を後続群で補正することが困難になり好ましくない。

【0118】

各実施の形態のズームレンズ系のように、フォーカシングレンズ群より物体側に像ぶれ補正レンズ群がある場合、以下の条件を満足することが望ましい。

$$0.3 < |f_F / f_{\text{of}}| < 6.0 \quad \dots (3)$$

ここで、

f_F ：フォーカシングレンズ群の焦点距離、

f_{of} ：像ぶれ補正レンズ群からフォーカシングレンズ群までのレンズ群の広角端における合成焦点距離、

である。

【0119】

条件(3)は、像ぶれ補正レンズ群とフォーカシングレンズ群との焦点距離に関する条

10

20

30

40

50

件である。条件（３）の上限を上回ると、像ぶれ補正レンズ群からフォーカシングレンズ群までのレンズ群の広角端における合成焦点距離が小さくなりすぎて、像ぶれ補正により発生する軸外収差の補正が困難になり、好ましくない。逆に、条件（３）の下限を下回ると、像ぶれ補正レンズ群からフォーカシングレンズ群までの合成焦点距離に対するフォーカシングレンズ群の焦点距離が短くなり、フォーカシング時の収差変動も大きくなり補正が困難になる。

【０１２０】

各実施の形態のズームレンズ系のように、フォーカシングレンズ群より物体側に像ぶれ補正レンズ群がある場合、以下の条件を満足することが望ましい。

$$0.5 < |f_o / f_w| < 2.8 \quad \dots (4)$$

（ただし、 $f_T / f_w > 4$ ）

ここで、

f_o ：像ぶれ補正レンズ群の焦点距離、

f_T ：全系の望遠端での焦点距離、

f_w ：全系の広角端での焦点距離、

である。

【０１２１】

条件（４）は、像ぶれ補正レンズ群の焦点距離を規定する。条件（４）の上限を上回ると、像ぶれ補正レンズ群の焦点距離が長くなりすぎるので、像ぶれ補正の際のレンズ群の移動が大きくなり好ましくない。逆に、条件（４）の下限を下回ると、像ぶれ補正レンズ群の焦点距離が短くなり、像ぶれ補正の際に発生する軸外の収差変動を後続群で補正することが困難になり好ましくない。

【０１２２】

なお、各実施の形態を構成している各レンズ群は、入射光線を屈折により偏向させる屈折型レンズ素子（つまり、異なる屈折率を有する媒質同士の界面で偏向が行われるタイプのレンズ）のみで構成されているが、これに限らない。例えば、回折により入射光線を偏向させる回折型レンズ素子、回折作用と屈折作用との組み合わせで入射光線を偏向させる屈折・回折ハイブリッド型レンズ素子、入射光線を媒質内の屈折率分布により偏向させる屈折率分布型レンズ素子等で、各レンズ群を構成してもよい。

【０１２３】

（実施の形態９）

図３３は、実施の形態９に係るカメラシステムのブロック図である。実施の形態９に係るカメラシステムは、カメラ本体１００と、交換レンズ装置２００とを含む。

【０１２４】

カメラ本体１００は、カメラコントローラ１０１、撮像センサ１０２、シャッターユニット１０３、画像表示制御部１０４、撮像センサ制御部１０５、コントラスト検出部１０６、シャッター制御部１０７、画像記録制御部１０８、ディスプレイ１１０、リリース釦１１１、メモリ１１２、電源１１３及びカメラマウント１１４を含む。

【０１２５】

カメラコントローラ１０１は、カメラシステム全体を制御する演算装置である。カメラコントローラ１０１は、画像表示制御部１０４と、撮像センサ制御部１０５と、コントラスト検出部１０６と、シャッター制御部１０７と、画像記録制御部１０８と、メモリ１１２と、カメラマウント１１４と電氣的に接続され相互に信号のやり取りが可能である。また、カメラコントローラ１０１は、リリース釦１１１と電氣的に接続され、リリース釦１１１の操作による信号を受信する。さらに、カメラコントローラ１０１は、電源１１３と接続される。

【０１２６】

撮像センサ１０２は、例えばＣ－ＭＯＳセンサである。撮像センサ１０２は、受光面に入射した光学像を画像データに変換して出力する。撮像センサ１０２は、撮像センサ制御部１０５からの駆動信号に応じて駆動される。撮像センサ制御部１０５は、カメラコント

10

20

30

40

50

ローラ 101 からの制御信号に応じて、撮像センサ 102 を駆動する駆動信号を出力するとともに、撮像センサ 102 から出力される画像データをカメラコントローラ 101 へ出力する。コントラスト検出部 106 は、カメラコントローラ 101 からの制御信号に応じて、撮像センサ 102 から出力される画像データからコントラストを演算して検出し、カメラコントローラ 101 へ出力する。

【0127】

シャッタユニット 103 は、撮像センサ 102 に入射する画像光の光路を遮断するシャッタ板を含む。シャッタユニット 103 は、シャッタ制御部 107 からの駆動信号に応じて駆動される。シャッタ制御部 107 は、カメラコントローラ 101 からの制御信号に応じて、シャッタユニット 103 のシャッタ板の開閉タイミングを制御する。

10

【0128】

ディスプレイ 110 は、例えば液晶表示装置である。ディスプレイ 110 は、画像表示制御部 104 からの駆動信号に応じて駆動され、表示面に画像を表示する。画像表示制御部 104 は、カメラコントローラ 101 からの制御信号に応じて、ディスプレイ 110 に表示する画像データとディスプレイを駆動する駆動信号を出力する。

【0129】

画像記録制御部 108 は、カメラコントローラ 101 からの制御信号に応じて、画像データを着脱可能に接続されたメモリカード 109 に出力する。

【0130】

カメラマウント 114 は、カメラ本体 200 と後述する交換レンズ装置 200 とを機械的に接続する。また、カメラマウント 114 は、カメラ本体 200 と後述する交換レンズ装置 200 とを電氣的に接続するインターフェースとしても機能する。

20

【0131】

交換レンズ装置 200 は、レンズコントローラ 201、像ぶれ制御部 202、絞り制御部 203、フォーカス制御部 204、ズーム制御部 205、メモリ 206、ぶれ検出部 207、絞りユニット 208、ズームレンズ系 209 (ズームレンズ群 209a、フォーカシングレンズ群 209b、像ぶれ補正レンズ群 209c) 及びレンズマウント 210 を含む。

【0132】

レンズコントローラ 201 は、交換レンズ装置 200 の全体を制御する演算装置であり、レンズマウント 210 及びカメラマウント 114 を介して前述したカメラ本体にあるカメラコントローラ 114 と接続される。レンズコントローラ 201 は、像ぶれ制御部 202、絞り制御部 203、フォーカス制御部 204、ズーム制御部 205、メモリ 206 及びぶれ検出部 207 と電氣的に接続され相互に信号のやり取りが可能である。

30

【0133】

ズームレンズ系 209 は、上述した実施の形態 1 のズームレンズ系である。ズームレンズ系 209 は、ズームレンズ群 209a、フォーカシングレンズ群 209b 及び像ぶれ補正レンズ群 209c を含む。なお、ズームレンズ群 209a、フォーカシングレンズ群 209b 及び像ぶれ補正レンズ群 209c の分類は、説明を簡単にするために模式化しているので、実際のズームレンズ系の構成を直接示してはいない。ズームレンズ系 209 は、ズームレンズ群 209a を光軸に沿った方向に移動させて、ズーミングを行う。ズームレンズ系 209 は、フォーカシングレンズ群 209b を光軸に沿った方向に移動させて、フォーカシングを行う。また、ズームレンズ系 209 は、像ぶれ補正レンズ群 209c を光軸に直交する方向に移動させて、像ぶれ補正を行う。

40

【0134】

像ぶれ制御部 202 は、レンズコントローラ 201 からの制御信号に応じて、像ぶれ補正レンズ群 209c の現在の位置を検出して出力する。また、像ぶれ制御部 202 は、像ぶれ補正レンズ群 209c を駆動する駆動信号を出力して、像ぶれ補正レンズ群 209c を光軸と直交する方向に駆動する。

【0135】

50

絞り制御部 203 は、レンズコントローラ 201 からの制御信号に応じて、絞りユニット 208 の現在の位置を検出して出力する。また、絞り制御部 203 は、絞りユニット 208 に含まれる絞り羽根を駆動する駆動信号を出力して絞りを開閉し、光学系の F ナンバーを変更する。

【0136】

フォーカス制御部 204 は、レンズコントローラ 201 からの制御信号に応じて、フォーカシングレンズ群 209b の現在の位置を検出して出力する。また、フォーカス制御部 204 は、フォーカシング群 209b を駆動する駆動信号を出力して、フォーカシングレンズ群 209b を光軸に沿った方向に駆動する。

【0137】

ズーム制御部 205 は、レンズコントローラ 201 からの制御信号に応じて、ズームレンズ群 209a の現在の位置を検出して出力する。また、ズーム制御部 205 は、ズームレンズ群 209a を駆動する駆動信号を出力して、ズームレンズ群 209b を光軸に沿った方向に駆動する。

【0138】

以上の構成において、リリース釦 111 が半押しされると、カメラコントローラ 101 は、オートフォーカスのルーチンを実行する。はじめに、カメラコントローラ 101 は、カメラマウント 114 及びレンズマウント 210 を介して、レンズコントローラ 201 と通信し、ズームレンズ群 209a、フォーカシングレンズ群 209b、像ぶれ補正レンズ群 209c 及び絞りユニット 208 の状態を検出する。

【0139】

次に、カメラコントローラ 101 は、カメラマウント 114 及びレンズマウント 210 を介して、レンズコントローラ 201 と通信し、レンズコントローラ 201 にフォーカシングレンズ群 209b をウォブリング駆動する制御信号を出力する。レンズコントローラ 201 は、制御信号に基づいてフォーカス制御部 204 を制御して、フォーカシングレンズ群 209b をウォブリング駆動する。カメラコントローラ 101 は、同時にカメラマウント 114 及びレンズマウント 210 を介して、レンズコントローラ 201 と通信し、レンズコントローラ 201 に絞り値が所定の値となるように指示する制御信号を出力する。レンズコントローラ 201 は、制御信号に基づいて絞り制御部 203 を制御して、絞りユニット 208 の絞り羽根を所定の F ナンバーとなるように駆動する。

【0140】

一方、カメラコントローラ 101 は、撮像センサ制御部 105 及びコントラスト検出部 106 に、制御信号を出力する。撮像センサ制御部 105 及びコントラスト検出部 106 は、それぞれフォーカシングレンズ群 209 のウォブリング駆動のサンプリング周波数と関連付けて、撮像センサ 102 からの出力を得る。撮像センサ制御部 105 は、カメラコントローラ 101 からの制御信号に基づいて、光学像に対応する画像データをカメラコントローラ 101 へ送信する。カメラコントローラ 101 は、画像データに所定の画像処理を施し、画像表示制御部 104 へ送信する。画像表示制御部 104 は、画像データをディスプレイ 110 に可視像として表示させる。

【0141】

また、コントラスト検出部 106 は、ウォブリングと関連付けて画像データのコントラスト値を演算により求めてカメラコントローラ 101 へ送信する。カメラコントローラ 101 は、コントラスト検出部 106 の検出結果に基づいて、レンズコントローラ 201 へフォーカシングレンズ群のフォーカシング移動方向と移動量を決定し、これらに関する情報をレンズコントローラ 201 へ送信する。レンズコントローラ 201 は、フォーカシングレンズ群 209b を移動するように、フォーカス制御部 204 へ制御信号を出力する。フォーカス制御部 204 は、レンズコントローラ 201 からの制御信号に基づいてフォーカシングレンズ群 209b を駆動する。

【0142】

ライブビュー状態でオートフォーカスを行う場合、以上の動作が繰り返される。このよ

10

20

30

40

50

うに、ライブビュー状態でオートフォーカスを行う場合、フォーカシングレンズ群 209b のウォブリングが継続して行われる。このとき、各実施の形態のズームレンズ系は、ウォブリングの際の像倍率変化が小さく、軽量であるので、上記システムに好適な撮像レンズ系となる。

【0143】

以上説明した実施の形態 9 では、ズームレンズ系として実施の形態 1 に記載したズームレンズ系を適用した例を説明したが、他の実施の形態に係るズームレンズ系を適用しても良いことは言うまでもない。

【実施例】

【0144】

以下、実施の形態 1 ～ 8 に係るズームレンズ系を具体的に実施した数値実施例を説明する。後述するように、数値実施例 1 ～ 8 は、それぞれ実施の形態 1 ～ 8 に対応する。なお、各数値実施例において、表中の長さの単位はすべて「mm」であり、画角の単位はすべて「°」である。また、各数値実施例において、 r は曲率半径、 d は面間隔、 n_d は d 線に対する屈折率、 v_d は d 線に対するアッペ数である。また、各数値実施例において、* 印を付した面は非球面であり、非球面形状は次式で定義している。

【数 1】

$$Z = \frac{h^2 / r}{1 + \sqrt{1 - (1 + \kappa)(h/r)^2}} + \sum A_n h^n \quad 20$$

ここで、 κ は円錐定数、 A_4 、 A_6 、 A_8 、 A_{10} 及び A_{12} は、それぞれ 4 次、6 次、8 次、10 次及び 12 次の非球面係数である。

【0145】

図 2、6、10、14、18、22、26、30 は、各々数値実施例 1、2、3、4、5、6、7、8 に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態の縦収差図である。

【0146】

図 3、7、11、15、19、23、27、31 は、各々数値実施例 1、2、3、4、5、6、7、8 に係るズームレンズ系の近接合焦状態の縦収差図である。

【0147】

各縦収差図において、(a) 図は広角端、(b) 図は中間位置、(c) 図は望遠端における各収差を表す。各縦収差図は、左側から順に、球面収差 (SA (mm))、非点収差 (AST (mm))、歪曲収差 (DIS (%)) を示す。球面収差図において、縦軸は F ナンバー (図中、F で示す) を表し、実線は d 線 (d -line)、短破線は F 線 (F -line)、長破線は C 線 (C -line) の特性である。非点収差図において、縦軸は像高 (図中、H で示す) を表し、実線はサジタル平面 (図中、s で示す)、破線はメリディオナル平面 (図中、m で示す) の特性である。歪曲収差図において、縦軸は像高 (図中、H で示す) を表す。

【0148】

各数値実施例において、無限遠合焦状態の縦収差図と近接合焦状態の縦収差図とから明らかのように、各ズームレンズ系は、近接合焦状態においても無限遠合焦状態と同様の良好な収差性能を達成している。

【0149】

図 4、8、12、16、20、24、28、32 は、それぞれ数値実施例 1、2、3、4、5、6、7、8 に係るズームレンズ系の像ぶれ補正を行っていない基本状態及び像ぶれ補正状態での横収差図である。

【0150】

各横収差図において、上段 3 つの収差図は、望遠端における像ぶれ補正を行っていない基本状態、下段 3 つの収差図は、像ぶれ補正レンズ群を光軸と垂直な方向に所定量移動さ

10

20

30

40

50

せた望遠端における像ぶれ補正状態にそれぞれ対応する。基本状態の各横収差図のうち、上段は最大像高の75%の像点における横収差、中段は軸上像点における横収差、下段は最大像高の-75%の像点における横収差に、それぞれ対応する。像ぶれ補正状態の各横収差図のうち、上段は最大像高の75%の像点における横収差、中段は軸上像点における横収差、下段は最大像高の-75%の像点における横収差に、それぞれ対応する。また各横収差図において、横軸は瞳面上での主光線からの距離を表し、実線はd線(d-line)、短破線はF線(F-line)、長破線はC線(C-line)の特性である。なお各横収差図において、メリディオナル平面を、第1レンズ群G1の光軸を含む平面としている。

【0151】

10

なお、各数値実施例のズームレンズ系について、望遠端における、像ぶれ補正状態での補正レンズ群の光軸と垂直な方向への移動量(Y_T)は、以下に示すとおりである。

【表1】

実施例	移動量 Y_T (mm)
1	0.43
2	0.43
3	0.45
4	0.31
5	0.45
6	0.53
7	0.56
8	0.44

20

【0152】

各横収差図から明らかなように、各ズームレンズ系は、軸上像点における横収差の対称性が良好であることがわかる。また、+75%像点における横収差と-75%像点における横収差とを基本状態で比較すると、いずれも湾曲度が小さく、収差曲線の傾斜がほぼ等しいことから、偏心コマ収差、偏心非点収差が小さいことがわかる。このことは、像ぶれ補正状態であっても十分な結像性能が得られていることを意味している。また、ズームレンズ系の像ぶれ補正角が同じ場合には、ズームレンズ系全体の焦点距離が短くなるにつれて、像ぶれ補正に必要な平行移動量が減少する。したがって、いずれのズーム位置であっても、結像特性を低下させることなく十分な像ぶれ補正を行うことが可能である。

30

【0153】

(数値実施例1)

数値実施例1のズームレンズ系は、図1に示した実施の形態1に対応する。数値実施例1のズームレンズ系のデータを以下の表に示す。

【0154】

面データ

40

面番号	r	d	nd	vd
物面		可変		
1	79.88860	1.20000	1.84666	23.8
2	55.84100	4.38040	1.49700	81.6
3	-538.09420	0.20000		
4	40.97500	4.17440	1.48749	70.4
5	171.38530	可変		
6	149.25700	0.80000	1.83400	37.3
7	19.24660	4.98360		
8	31.30520	2.43820	1.84666	23.8

50

9	795.70900	可変					
10	-46.11980	0.79940	1.77250	49.6			
11	37.65760	0.68440					
12	22.26400	1.39710	1.92286	20.9			
13	26.59940	8.97180					
14(絞り)		可変					
15	-85.03340	1.80330	1.49700	81.6			
16	-35.73500	0.10050					
17	165.76270	2.00390	1.49700	81.6			
18	-69.04310	0.20000					10
19	54.65300	0.80000	1.92286	20.9			
20	37.32040	2.79140	1.49700	81.6			
21	-93.02670	0.20000					
22	33.57310	3.54500	1.49700	81.6			
23	-37.21710	0.80220	1.88300	40.8			
24	-94.83610	可変					
25	3674.43700	0.70110	1.77250	49.6			
26	23.16340	可変					
27	54.32140	2.27740	1.75520	27.5			
28	-46.59960	0.10000					20
29	153.18810	0.80000	1.83481	42.7			
30	25.42440	可変					
31		4.20000	1.51680	64.2			
32		BF					
像面							
各種データ							
ズーム比	4.68638						
	広角	中間	望遠	広角	中間	望遠	
焦点距離	41.2718	89.3913	193.4154	40.8785	86.3288	175.1678	30
F ナンバー	3.59391	4.65880	6.26304	3.59488	4.66053	6.38448	
画角	15.0327	6.8445	3.1916	15.0591	6.8432	3.1309	
像高	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	
レンズ全長	116.3210	129.8654	154.5799	116.3339	129.8760	154.4691	
B F	0.99156	1.01132	0.99975	1.01382	1.02127	0.89152	
d0				3883.6791	3870.1455	3845.4204	
d5	1.6530	22.7100	32.4306	1.6530	22.7100	32.4306	
d9	8.5027	3.4756	5.9904	8.5027	3.4756	5.9904	
d14	16.9073	8.9078	1.1313	16.9073	8.9078	1.1313	
d24	15.3069	10.4853	1.0412	15.4706	11.0079	2.1911	40
d26	2.7426	3.3486	12.6422	2.5696	2.8266	11.4897	
d30	19.8628	29.5727	49.9904	19.8628	29.5727	49.9904	

【 0 1 5 5 】

(数値実施例 2)

数値実施例 2 のズームレンズ系は、図 5 に示した実施の形態 2 に対応する。数値実施例 2 のズームレンズ系のデータを以下の表に示す。

【 0 1 5 6 】

面データ							
面番号	r	d	nd	vd			
物面		可変					50

1	96.08820	1.20030	1.84666	23.8	
2	61.13150	4.96580	1.49700	81.6	
3	-233.55870	0.20000			
4	47.75020	3.83530	1.48749	70.4	
5	206.95980	可変			
6	-107.60720	0.89610	1.88300	40.8	
7	21.03400	0.25840			
8	24.92220	2.49620	1.78470	26.1	
9	-228.53650	可変			
10	-37.42360	0.90270	1.83481	42.7	10
11	27.11510	0.10000			
12	24.16450	1.63050	1.92286	20.9	
13	55.10970	7.17610			
14(絞り)		可変			
15	-198.76890	2.19660	1.49700	81.6	
16	-33.20810	0.18370			
17	60.33330	2.29510	1.49700	81.6	
18	-114.41090	0.15780			
19	170.03360	0.89890	1.84666	23.8	
20	28.36260	0.20320			20
21	29.80500	3.66370	1.49700	81.6	
22	-61.71440	0.19890			
23	32.38510	2.88520	1.58921	41.0	
24	-215.78670	可変			
25*	-696.90530	0.95800	1.69100	54.7	
26*	18.48420	可変			
27	25.42090	1.63640	1.84666	23.8	
28	41.70670	可変			
29		4.20000	1.51680	64.2	
30		BF			30
像面					

非球面データ

第25面

K= 0.00000E+00, A4=-1.34852E-05, A6= 4.68839E-07, A8=-4.71690E-09

A10= 1.38874E-11

第26面

K= 0.00000E+00, A4=-2.58833E-05, A6= 5.06789E-07, A8=-4.85574E-09

A10= 7.62677E-12

40

各種データ

ズーム比

4.38240

	広角	中間	望遠	広角	中間	望遠
焦点距離	41.5596	88.1623	182.1306	41.1818	87.7556	174.5136
F ナンバー	3.70547	4.32493	5.80463	3.70197	4.45073	6.19004
画角	15.5868	7.0732	3.4237	15.5982	6.8813	3.2215
像高	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300
レンズ全長	111.2799	131.2672	153.1675	111.2848	132.6071	156.5461
B F	1.02055	1.02107	1.02173	1.02549	3.87898	5.91833
d0				4000.0000	4000.0000	4000.0000

50

d5	1.4200	27.8703	40.9047	1.4200	27.8703	40.9047
d9	14.2808	5.0996	1.7207	14.2808	4.8789	1.5000
d14	9.1160	7.3403	1.4733	9.1160	7.3403	1.4733
d24	20.8421	12.4878	1.9989	21.0270	12.4890	2.6288
d26	1.5346	1.0433	1.8495	1.3497	0.5243	0.7018
d28	19.9269	33.2659	61.0598	19.9269	32.4864	60.2803

【 0 1 5 7 】

(数値実施例 3)

数値実施例 3 のズームレンズ系は、図 9 に示した実施の形態 1 に対応する。数値実施例 3 のズームレンズ系のデータを以下の表に示す。

10

【 0 1 5 8 】

面データ

面番号	r	d	nd	vd
物面		可変		
1	78.42590	1.19980	1.87800	38.2
2	46.72820	6.00690	1.49700	81.6
3	350.38430	0.19360		
4	48.17050	5.84260	1.49700	81.4
5	1457.09620	可変		
6	-201.19250	1.00000	1.75670	36.3
7	30.51420	9.30230		
8	42.78680	2.10060	1.82027	29.7
9	-1708.73110	可変		
10	-45.94270	0.79990	1.75500	52.3
11	13.13030	2.22310	1.84666	23.9
12	37.49120	2.00070		
13(絞り)		可変		
14	258.91190	2.09420	1.59380	61.4
15	-31.30260	0.19920		
16	269.94740	4.08650	1.52540	70.5
17	-18.77030	0.79960	1.83918	23.9
18	-167.79930	可変		
19	-366.58870	3.09910	1.49700	81.6
20	-32.55030	0.20020		
21	48.78510	2.47730	1.71852	33.5
22	-551.02540	可変		
23	123.85260	0.77430	1.71371	54.5
24	27.80440	可変		
25		4.19990	1.51680	64.2
26		1.20462		
像面		0.00000		

20

30

40

各種データ

ズーム比	4.70663					
	広角	中間	望遠	広角	中間	望遠
焦点距離	41.3304	89.7286	194.5268	41.1585	88.0536	178.8076
F ナンバー	3.71919	5.10373	5.99992	3.72518	5.13555	6.16865
画角	15.7997	6.9927	3.1902	15.7691	6.9514	3.1059
像高	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300
レンズ全長	135.1359	152.7756	171.2381	135.1538	152.7643	171.3291

50

B F	1.20462	1.24030	1.30620	1.22216	1.22902	1.39756
d0				4000.0000	4000.0000	4000.0000
d5	2.4969	30.6249	41.5125	2.4969	30.6249	41.5125
d9	17.1808	2.6465	13.0905	17.1808	2.6465	13.0905
d13	14.3097	9.7475	1.4834	14.3097	9.7475	1.4834
d18	9.5266	9.5266	9.5266	9.3169	8.8948	7.5627
d22	24.0081	14.2184	2.0000	24.2179	14.8502	3.9640
d24	17.8096	36.1716	53.7187	17.8096	36.1716	53.7186

【 0 1 5 9 】

(数値実施例 4)

10

数値実施例 4 のズームレンズ系は、図 1 3 に示した実施の形態 4 に対応する。数値実施例 4 のズームレンズ系のデータを以下の表に示す。

【 0 1 6 0 】

面データ

面番号	r	d	nd	vd
物面				
1	79.59080	1.50000	1.87800	38.2
2	46.59430	5.45970	1.49700	81.6
3	155.01950	0.19360		
4	43.44630	6.11360	1.49700	81.6
5	211.45010	可変		
6	-64.05960	0.90000	1.75670	36.3
7	22.89500	2.89770	1.82114	24.1
8	249.92920	1.00000		
9	-340.83290	1.13370	1.75670	36.3
10	25.32540	2.10770	1.84666	23.8
11	68.82910	可変		
12(絞り)		1.40000		
13	2150.07340	1.44350	1.59380	61.4
14	-69.29450	0.10100		
15	48.20190	2.29980	1.52540	70.5
16	-30.63980	0.75000	1.83918	23.9
17	-94.66950	可変		
18	234.43110	1.57580	1.49700	81.6
19	-113.37950	10.20840		
20	117.93500	1.74200	1.71852	33.5
21	-186.97620	可変		
22	-49.72050	0.77430	1.49700	81.4
23	35.46500	可変		
24		4.19990	1.51680	64.2
25		0.96800		
26		0.00000		
27		0.05779		
像面		0.00000		

20

30

40

各種データ

ズーム比	4.70111					
	広角	中間	望遠	広角	中間	望遠
物体距離	INF	INF	INF	4000	4000	4000
焦点距離	41.2110	89.3336	193.7326	40.9238	85.8540	175.9349

50

F ナンバー	3.73123	4.26565	7.17771	3.75311	4.29688	7.26520
画角	16.2431	7.0701	3.2335	16.1200	7.0087	3.1923
像高	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300
レンズ全長	118.8851	135.5682	162.6738	118.9674	135.6579	163.0442
B F	0.05779	0.15305	-0.10748	0.24003	0.24277	0.26307
d5	4.0000	37.0408	46.5472	4.0000	37.0408	46.5472
d11	29.1704	12.4000	1.4999	29.1704	12.4000	1.4999
d17	9.5265	9.5266	9.5269	9.1980	8.3391	7.6216
d21	26.3617	17.1321	1.6000	26.5903	18.3196	3.5051
d23	3.0000	12.5469	56.8386	3.0000	12.5469	56.8386

10

【 0 1 6 1 】

(数値実施例 5)

数値実施例 5 のズームレンズ系は、図 1 7 に示した実施の形態 5 に対応する。数値実施例 5 のズームレンズ系のデータを以下の表に示す。

【 0 1 6 2 】

面データ

面番号	r	d	nd	vd
物面		可変		
1	101.86910	1.29990	1.84666	23.8
2	66.30390	5.97060	1.49700	81.6
3	-228.10900	0.10000		
4	35.31660	5.13250	1.48749	70.4
5	86.31380	可変		
6	87.50050	0.72560	1.83400	37.3
7	18.84310	3.61870		
8	25.42790	2.31830	1.84666	23.8
9	79.88120	10.33950		
10	-43.20810	0.70000	1.68966	53.0
11	31.99480	0.10000		
12	21.48710	1.67870	1.84666	23.8
13	26.79970	6.04420		
14(絞り)		可変		
15	-894.97490	1.95800	1.49700	81.6
16	-46.15270	0.10000		
17	-1236.84750	1.71990	1.49700	81.6
18	-64.62930	0.10000		
19	57.92080	0.70000	1.92286	20.9
20	40.65290	2.72120	1.49700	81.6
21	-69.36640	0.10000		
22	32.56890	3.31170	1.49700	81.6
23	-39.36570	0.70000	1.88300	40.8
24	-108.41110	可変		
25	-70.52180	0.70000	1.80420	46.5
26	35.99030	可変		
27	64.19020	2.38010	1.75520	27.5
28	-42.09660	0.16700		
29	42.28970	0.92740	1.83481	42.7
30	18.48540	可変		
31		4.20000	1.51680	64.2
32		1.01774		

20

30

40

50

像面	0.00000					
各種データ						
ズーム比	4.17372					
	広角	中間	望遠	広角	中間	望遠
焦点距離	46.2021	93.1218	192.8345	45.7045	89.2199	175.2455
F ナンバー	3.96589	3.41298	5.83505	3.97342	3.42649	5.92175
画角	13.4051	6.5844	3.1782	13.4334	6.6355	3.1114
像高	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300
レンズ全長	118.3633	136.6181	154.8564	118.3706	136.6451	154.7802
B F	1.01774	1.05534	0.98741	1.00732	1.08544	0.90846
d0				3884.0557	3864.6948	3845.7762
d5	1.2000	26.5739	30.8067	1.2000	26.5739	30.8067
d14	17.8126	16.0634	1.5284	17.8126	16.0634	1.5284
d24	14.6195	9.7262	2.0014	14.8046	10.4834	3.2462
d26	2.7154	6.5150	14.0847	2.5480	5.7547	12.8426
d30	23.1848	18.8710	47.6345	23.1848	18.8710	47.6345

【 0 1 6 3 】

(数値実施例 6)

数値実施例 6 のズームレンズ系は、図 2 1 に示した実施の形態 6 に対応する。数値実施例 6 のズームレンズ系のデータを以下の表に示す。

【 0 1 6 4 】

面データ				
面番号	r	d	nd	vd
物面		可変		
1	105.76950	1.50000	1.87800	38.2
2	53.77680	6.66460	1.49700	81.6
3	340.13350	0.19360		
4	46.97100	7.40980	1.49700	81.6
5	373.40520	可変		
6	-52.72810	0.90000	1.75670	36.3
7	26.40860	2.97170	1.82114	24.1
8	-861.19410	1.00000		
9	-421.29720	0.80000	1.75670	36.3
10	19.82580	2.47080	1.84666	23.8
11	50.87700	可変		
12(絞り)		1.50000		
13	203.59460	1.63710	1.59380	61.4
14	-85.30760	0.19920		
15	91.20520	2.64410	1.52540	70.5
16	-31.81360	0.90020	1.83918	23.9
17	-60.29420	可変		
18	-99.01460	2.94700	1.52540	70.5
19	-22.70510	1.00040	1.84666	23.8
20	-54.22510	6.00000		
21	138.03640	2.71030	1.80518	25.5
22	-60.84110	可変		
23	-97.88170	0.77430	1.49700	81.6
24	31.95350	可変		
25		4.20000	1.51680	64.2

26

像面

</

25	4.20000	1.51680	64.2
26	BF		
像面			

各種データ

ズーム比 4.71245

	広角	中間	望遠	広角	中間	望遠
焦点距離	41.2015	89.3994	194.1600	40.9681	86.6940	180.6754
F ナンバー	3.90425	4.07258	7.14509	3.92458	4.12550	7.33808
画角	15.9191	7.0860	3.2323	15.8152	6.9747	3.1428
像高	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300
レンズ全長	130.0317	149.2917	169.9737	130.0471	149.3164	170.0282
B F	1.03191	0.94925	0.97392	1.04716	0.97387	1.02829
d0				4000.0000	4000.0000	4000.0000
d5	2.5522	38.3334	43.0238	2.5522	38.3334	43.0238
d11	38.3240	19.3298	1.5000	38.3240	19.3298	1.5000
d17	11.6995	14.2015	5.0616	12.9797	19.4535	12.2746
d20	4.4053	9.3079	12.2129	3.1252	4.0559	5.0000
d22	26.3749	18.5146	3.0265	26.3749	18.5146	3.0265
d24	7.0000	10.0114	65.5311	7.0000	10.0114	65.5311

【 0 1 6 7 】

(数値実施例 8)

数値実施例 8 のズームレンズ系は、図 2 9 に示した実施の形態 8 に対応する。数値実施例 8 のズームレンズ系のデータを以下の表に示す。

【 0 1 6 8 】

面データ

面番号	r	d	nd	vd
物面		可変		
1	82.85600	1.20000	1.84666	23.8
2	61.48560	9.13460	1.49700	81.6
3	-2787.80860	0.20000		
4	49.43870	6.71990	1.49700	81.6
5	110.76750	可変		
6	30.95520	0.80000	1.88267	40.8
7	10.98510	5.70370		
8*	-62.02010	1.20000	1.85976	40.5
9	42.27070	0.10290		
10	20.41600	2.80850	1.92286	20.9
11	126.26210	可変		
12	-79.87880	1.52840	1.92286	20.9
13	-30.93440	0.59470		
14	-18.98130	0.80000	1.88287	40.8
15	44.94670	1.35130	1.92286	20.9
16*	138.81620	可変		a
17(絞リ)		1.50000		
18	26.19950	1.98620	1.81231	45.2
19	-980.82960	0.10000		
20	24.81860	2.05170	1.66588	58.4
21	-869.28790	2.59320		
22	-45.80690	0.80000	1.92286	20.9

10

20

30

40

50

23	46.31110	0.10000		
24	30.60210	2.11400	1.49700	81.6
25	-54.37230	2.95370		
26*	54.72500	0.80000	1.74728	51.2
27	31.33230	2.35990	1.56650	69.0
28	-26.99190	可変		
29	-56.63870	1.33670	1.84666	23.8
30	-28.85260	0.80000	1.81159	45.3
31*	109.74970	可変		
32	77.53990	2.08690	1.62538	35.6
33	-38.55300	0.89750		
34	-17.33640	0.80000	1.88289	40.8
35	-68.31790	0.10000		
36	41.63170	1.65490	1.65233	32.6
37	214.46340	可変		
38		4.20000	1.51680	64.2
39		BF		
像面				

10

非球面データ

20

第8面

K= 0.00000E+00, A4=-1.55711E-05, A6= 5.12022E-08, A8=-2.29523E-09
A10= 1.12839E-11

第16面

K= 0.00000E+00, A4=-1.02230E-05, A6= 2.34863E-08, A8=-1.21507E-09
A10= 2.21100E-11

第26面

K= 0.00000E+00, A4=-6.08663E-05, A6=-1.02979E-07, A8=-1.95916E-10
A10= 6.57580E-12

第31面

K= 0.00000E+00, A4=-1.20760E-05, A6=-2.63940E-07, A8= 7.32088E-09
A10=-8.30305E-11

30

各種データ

ズーム比

10.08912

	広角	中間	望遠	広角	中間	望遠
焦点距離	14.4195	45.8042	145.4801	14.4013	45.3347	135.4949
Fナンバー	3.60057	4.19379	5.80043	3.60094	4.20803	5.85992
画角	40.4346	13.5612	4.2125	40.5080	13.5842	4.1940
像高	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300	11.0300
レンズ全長	100.6138	130.7860	164.5049	100.6170	130.8113	164.4475
B F	1.00676	1.07461	0.98186	1.00193	1.09928	0.95442
d0				3884.0557	3864.6948	3845.7762
d5	1.0000	30.6930	56.5691	1.0000	30.6930	56.5691
d11	3.7603	2.8658	2.0000	3.7603	2.8658	2.0000
d16	15.1769	4.8771	1.5000	15.1769	4.8771	1.5000
d28	2.0675	7.3071	1.0000	2.1059	7.5949	2.6531
d31	5.0503	2.6335	15.6147	5.0200	2.3463	13.9317
d37	11.1733	19.9562	25.4605	11.1733	19.9562	25.4605

40

以下の表に、各数値実施例に係るズームレンズ系における各条件の対応値を示す。

【表 2】

条件	実施例							
	1	2	3	4	5	6	7	8
(1)	2.015	0.644	0.321	0.139	1.438	0.166	0.160	14.232
(2)	0.229	0.068	0.037	0.016	0.130	0.019	0.018	9.958
(3)	0.577	0.674	1.279	1.847	0.480	1.970	4.699	2.490
(4)	0.800	0.756	0.747	2.213	0.729	1.752	2.177	2.051

【産業上の利用可能性】

【0170】

本発明に係るズームレンズ系は、デジタルスチルカメラ、デジタルビデオカメラ、携帯電話機器、PDA (Personal Digital Assistance)、監視システムにおける監視カメラ、Webカメラ、車載カメラ等のデジタル入力装置に適用可能であり、特にデジタルスチルカメラ、デジタルビデオカメラ等の高画質が要求される撮影光学系に好適である。

【図面の簡単な説明】

【0171】

【図 1】実施の形態 1 (実施例 1) に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態を示すレンズ

10

20

30

40

50

配置図

【図 2】実施例 1 に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態の縦収差図

【図 3】実施例 1 に係るズームレンズ系の近接合焦状態の縦収差図

【図 4】実施例 1 に係るズームレンズ系の望遠端における、像ぶれ補正を行っていない基本状態及び像ぶれ補正状態での横収差図

【図 5】実施の形態 2（実施例 2）に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態を示すレンズ配置図

【図 6】実施例 2 に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態の縦収差図

【図 7】実施例 2 に係るズームレンズ系の近接合焦状態の縦収差図

【図 8】実施例 2 に係るズームレンズ系の望遠端における、像ぶれ補正を行っていない基本状態及び像ぶれ補正状態での横収差図

10

【図 9】実施の形態 3（実施例 3）に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態を示すレンズ配置図

【図 10】実施例 3 に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態の縦収差図

【図 11】実施例 3 に係るズームレンズ系の近接合焦状態の縦収差図

【図 12】実施例 3 に係るズームレンズ系の望遠端における、像ぶれ補正を行っていない基本状態及び像ぶれ補正状態での横収差図

【図 13】実施の形態 4（実施例 4）に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態を示すレンズ配置図

【図 14】実施例 4 に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態の縦収差図

20

【図 15】実施例 4 に係るズームレンズ系の近接合焦状態の縦収差図

【図 16】実施例 4 に係るズームレンズ系の望遠端における、像ぶれ補正を行っていない基本状態及び像ぶれ補正状態での横収差図

【図 17】実施の形態 5（実施例 5）に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態を示すレンズ配置図

【図 18】実施例 5 に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態の縦収差図

【図 19】実施例 5 に係るズームレンズ系の近接合焦状態の縦収差図

【図 20】実施例 5 に係るズームレンズ系の望遠端における、像ぶれ補正を行っていない基本状態及び像ぶれ補正状態での横収差図

【図 21】実施の形態 6（実施例 6）に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態を示すレンズ配置図

30

【図 22】実施例 6 に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態の縦収差図

【図 23】実施例 6 に係るズームレンズ系の近接合焦状態の縦収差図

【図 24】実施例 6 に係るズームレンズ系の望遠端における、像ぶれ補正を行っていない基本状態及び像ぶれ補正状態での横収差図

【図 25】実施の形態 7（実施例 7）に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態を示すレンズ配置図

【図 26】実施例 7 に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態の縦収差図

【図 27】実施例 7 に係るズームレンズ系の近接合焦状態の縦収差図

【図 28】実施例 7 に係るズームレンズ系の望遠端における、像ぶれ補正を行っていない基本状態及び像ぶれ補正状態での横収差図

40

【図 29】実施の形態 8（実施例 8）に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態を示すレンズ配置図

【図 30】実施例 8 に係るズームレンズ系の無限遠合焦状態の縦収差図

【図 31】実施例 8 に係るズームレンズ系の近接合焦状態の縦収差図

【図 32】実施例 8 に係るズームレンズ系の望遠端における、像ぶれ補正を行っていない基本状態及び像ぶれ補正状態での横収差図

【図 33】実施の形態 9 に係るカメラシステムのブロック図

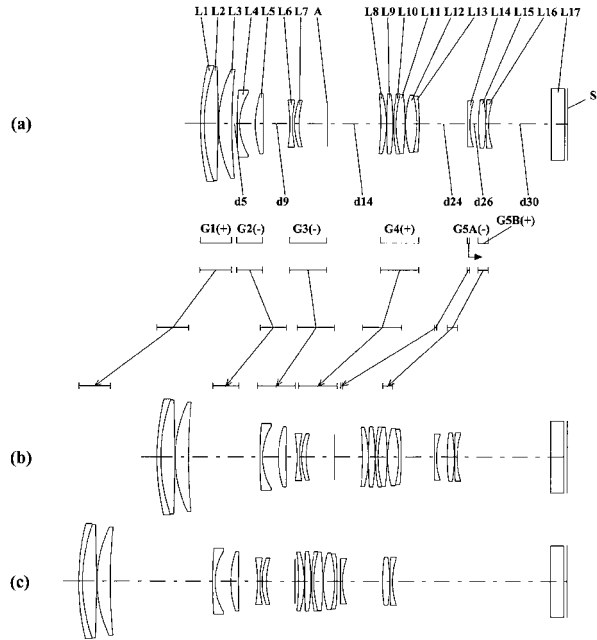
【符号の説明】

【0172】

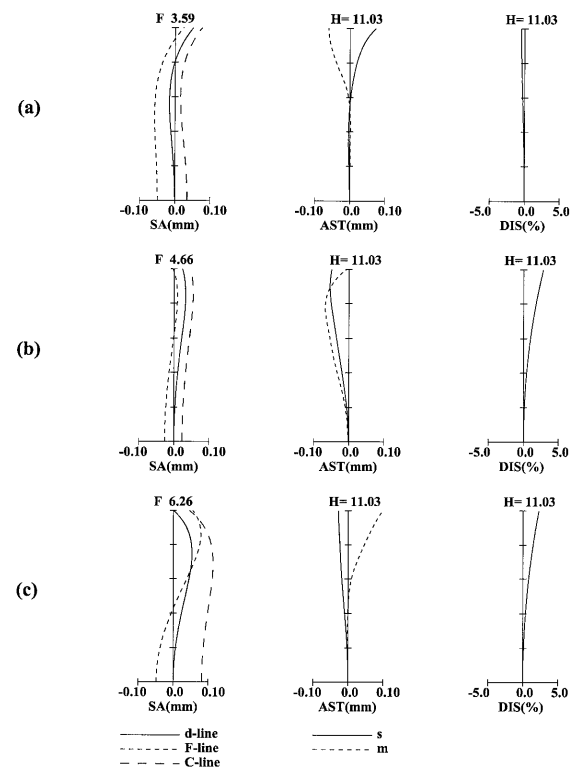
50

1 0 0	カメラ本体	
1 0 1	カメラコントローラ	
1 0 2	撮像センサ	
1 0 3	シャッタユニット	
1 0 4	画像表示制御部	
1 0 5	撮像センサ制御部	
1 0 6	コントラスト検出部	
1 0 7	シャッタユニット制御部	
1 0 8	画像記録制御部	
1 0 9	メモリカード	10
1 1 0	ディスプレイ	
1 1 1	レリーズ釦	
1 1 2	メモリ（本体）	
1 1 3	電源	
1 1 4	カメラマウント	
2 0 0	交換レンズ装置	
2 0 1	レンズコントローラ	
2 0 2	像ぶれ補正部	
2 0 3	絞り制御部	
2 0 4	フォーカス制御部	20
2 0 5	ズーム制御部	
2 0 6	メモリ（レンズ）	
2 0 7	ぶれ検出部	
2 0 8	絞りユニット	
2 0 9	ズームレンズ系	
2 0 9 a	ズームレンズ群	
2 0 9 b	フォーカシングレンズ群	
2 1 0	レンズマウント	

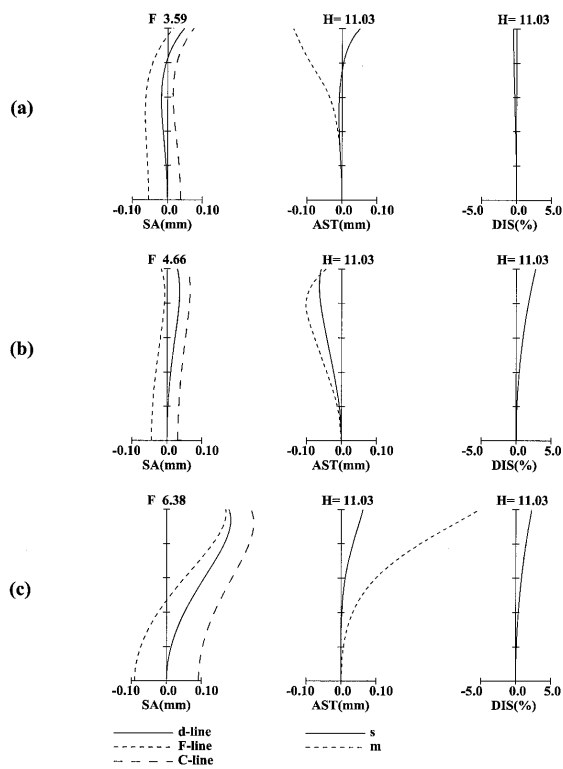
【図 1】



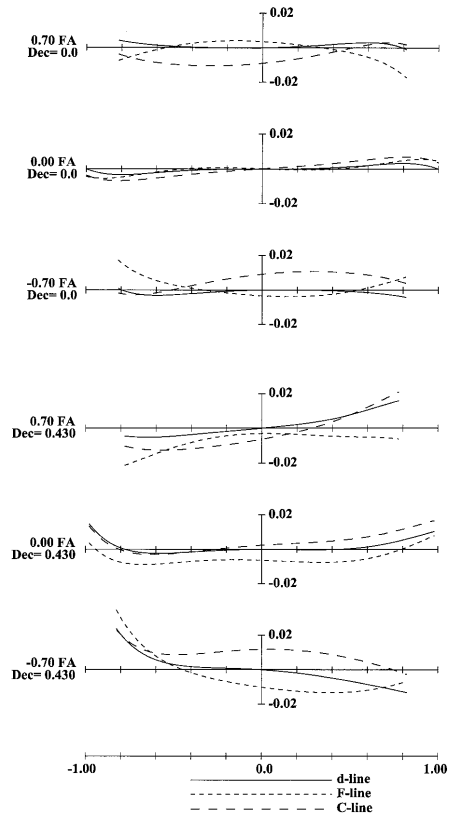
【図 2】



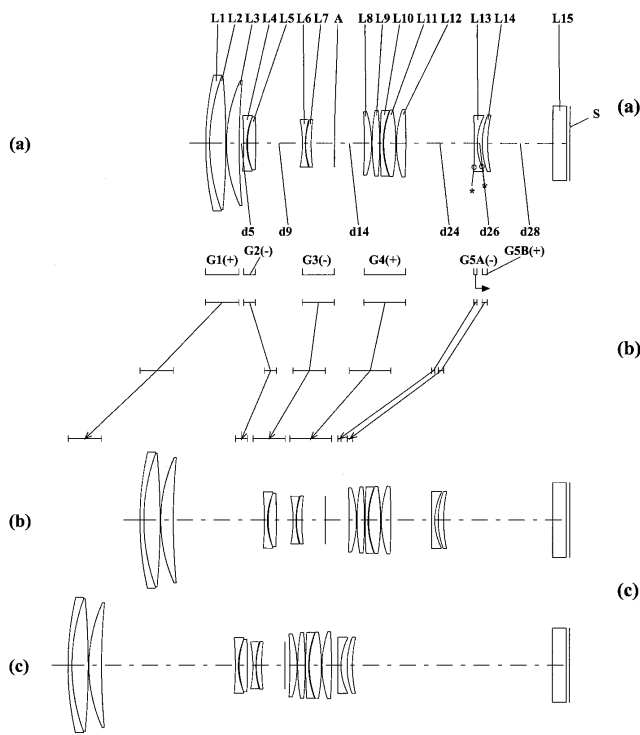
【図 3】



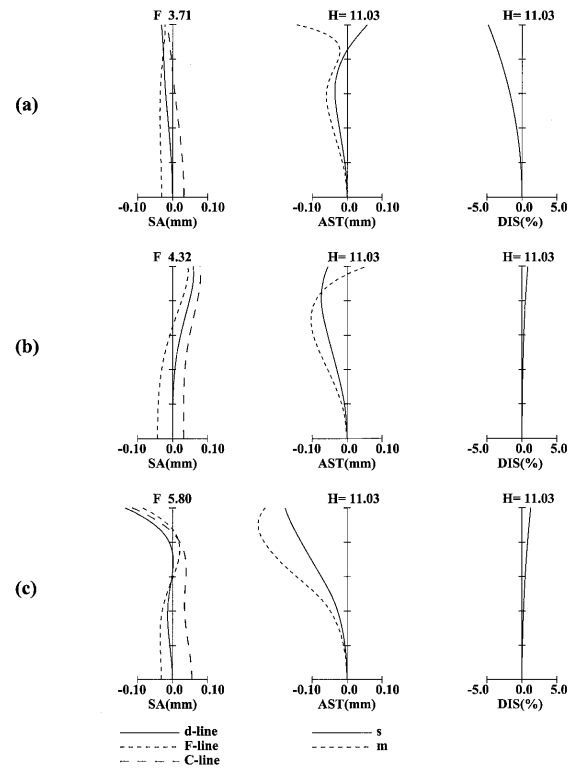
【図 4】



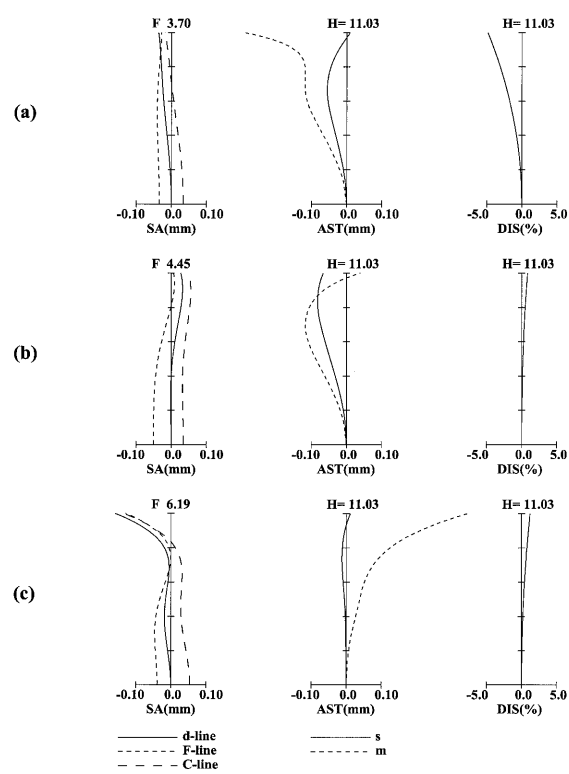
【図5】



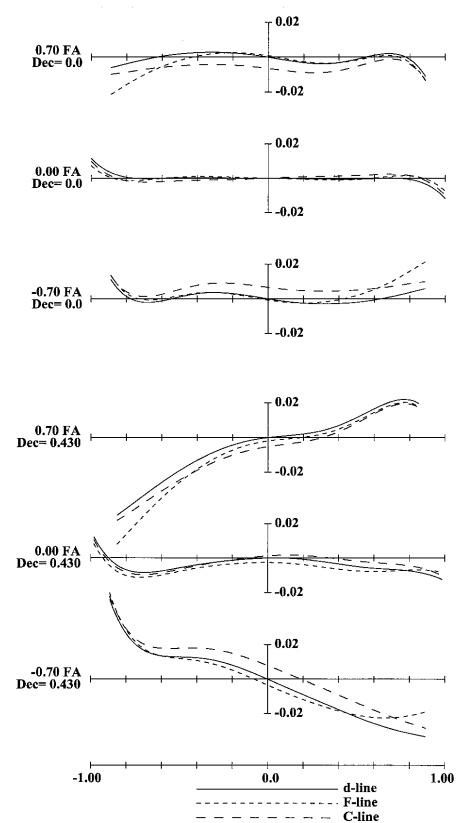
【図6】



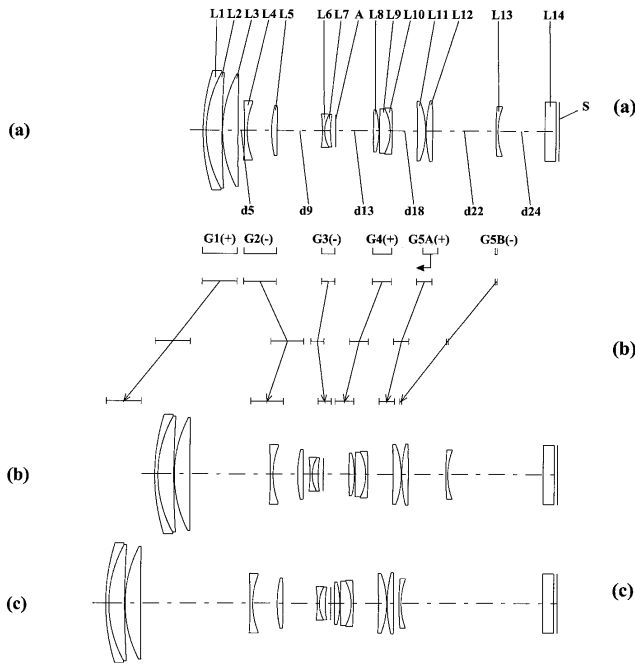
【図7】



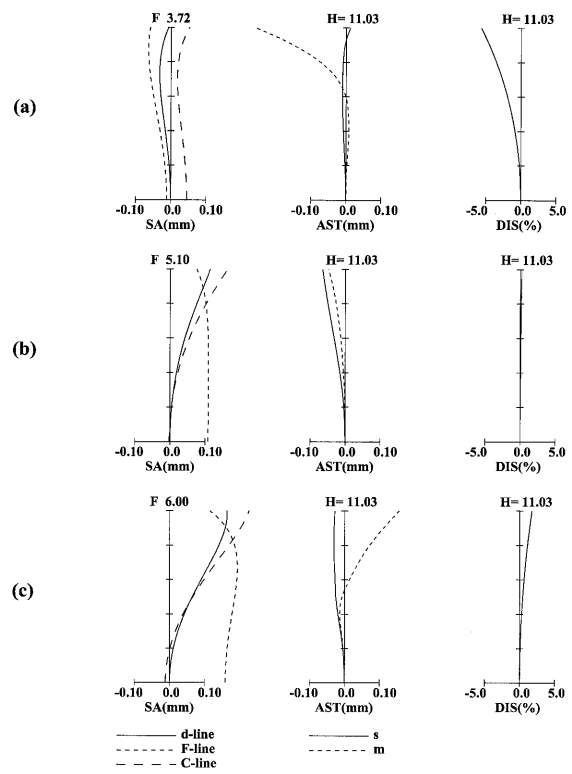
【図8】



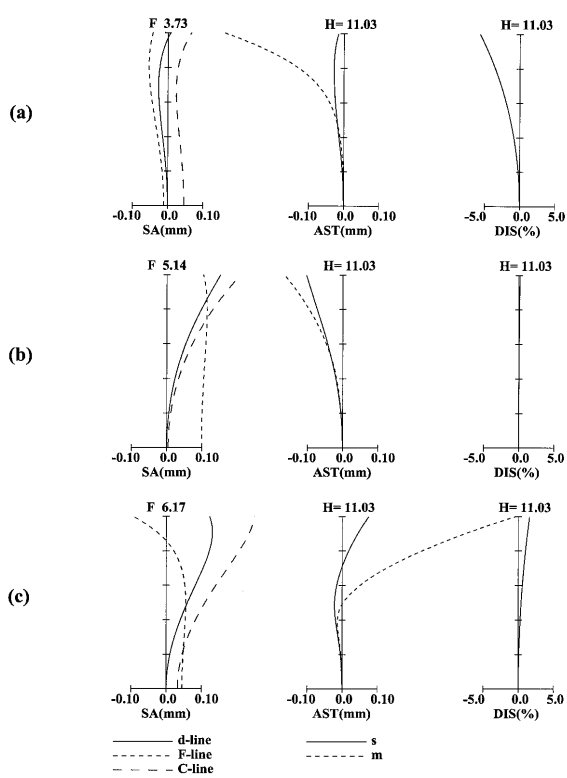
【図 9】



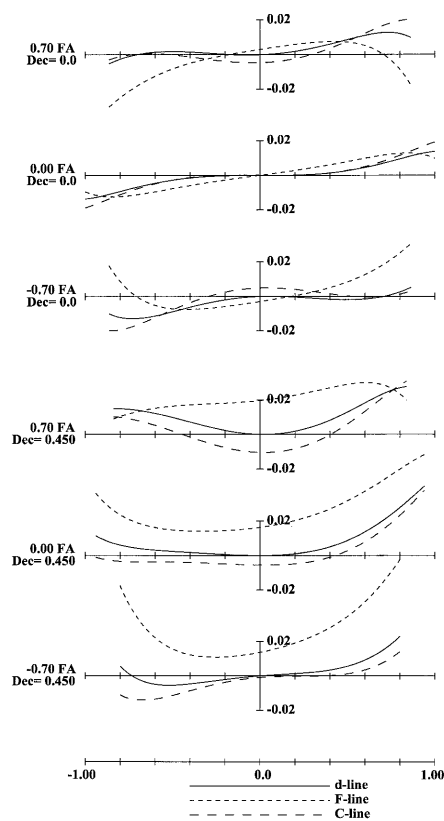
【図 10】



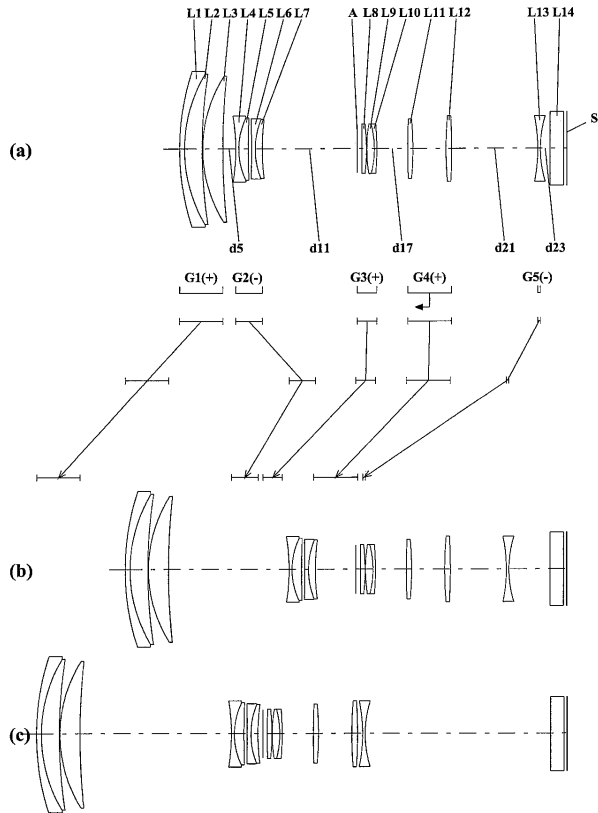
【図 11】



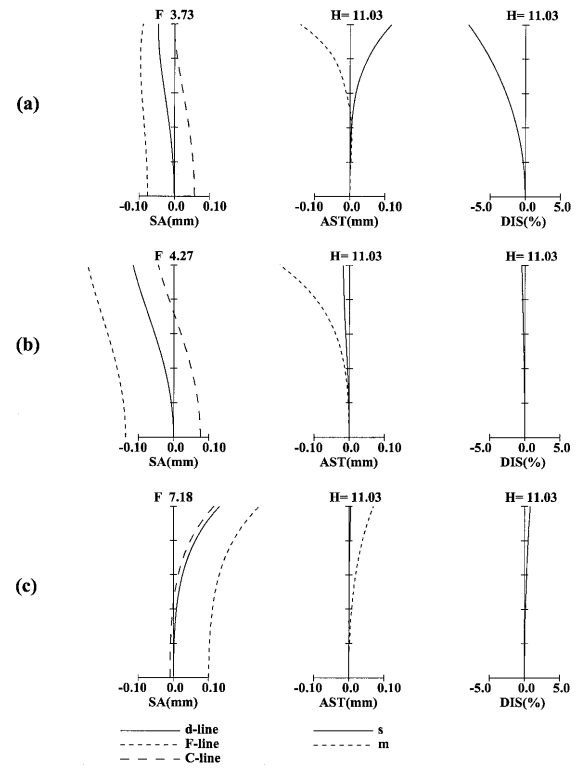
【図 12】



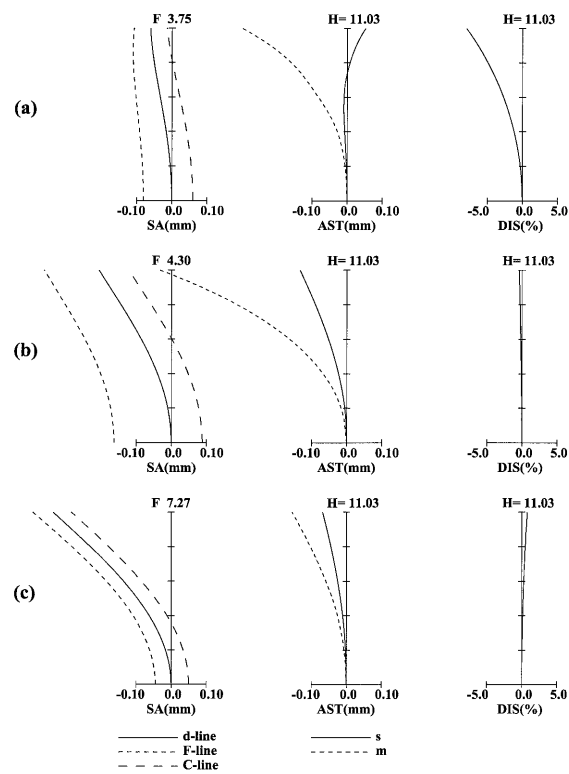
【図 13】



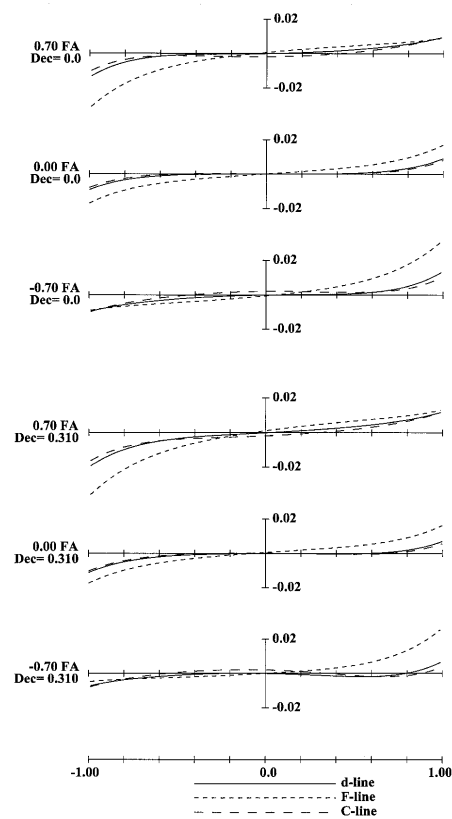
【図 14】



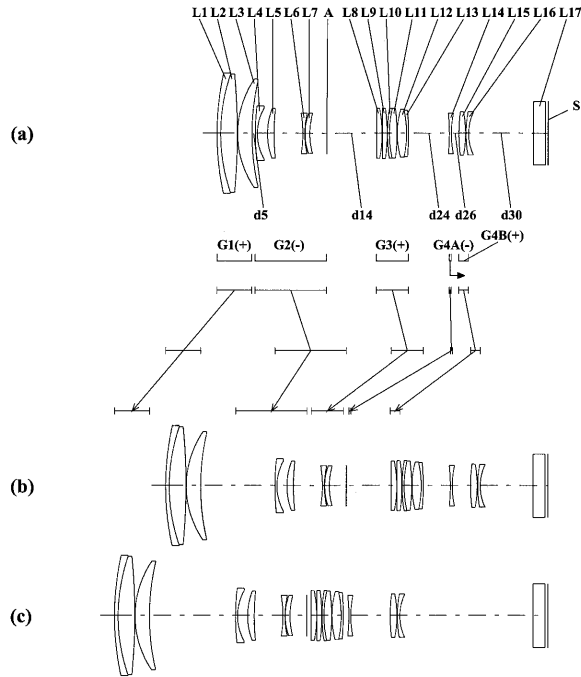
【図 15】



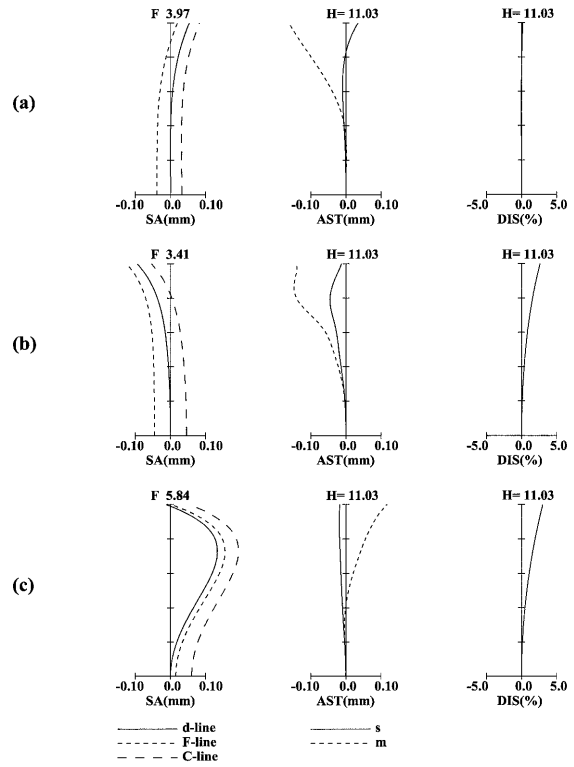
【図 16】



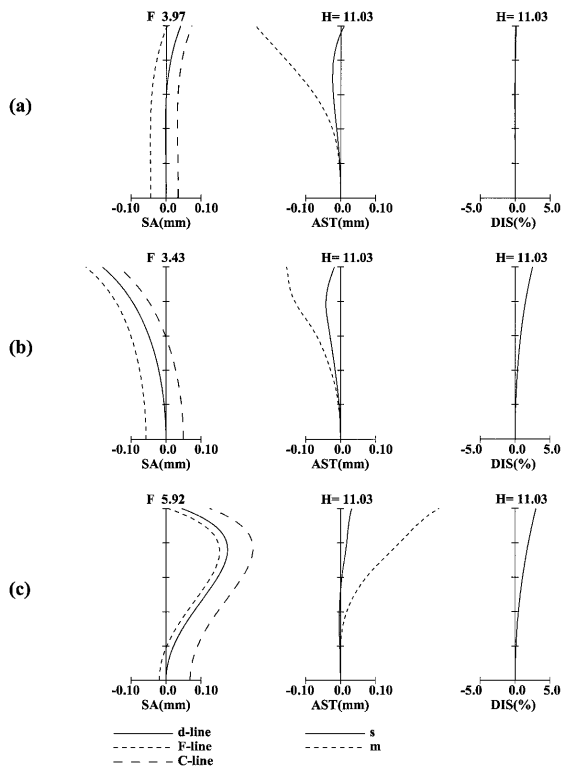
【図 17】



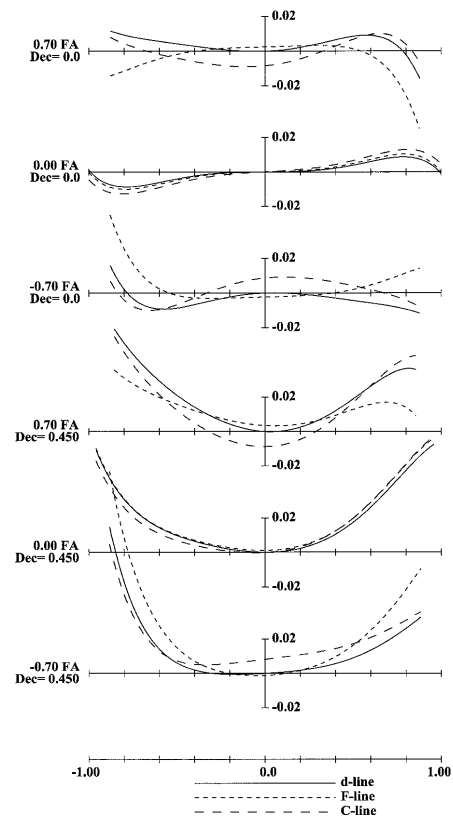
【図 18】



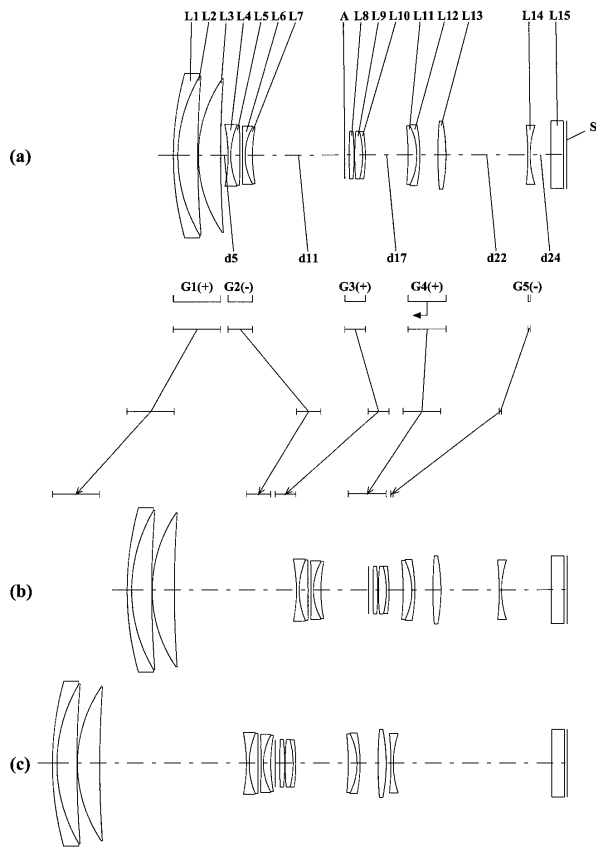
【図 19】



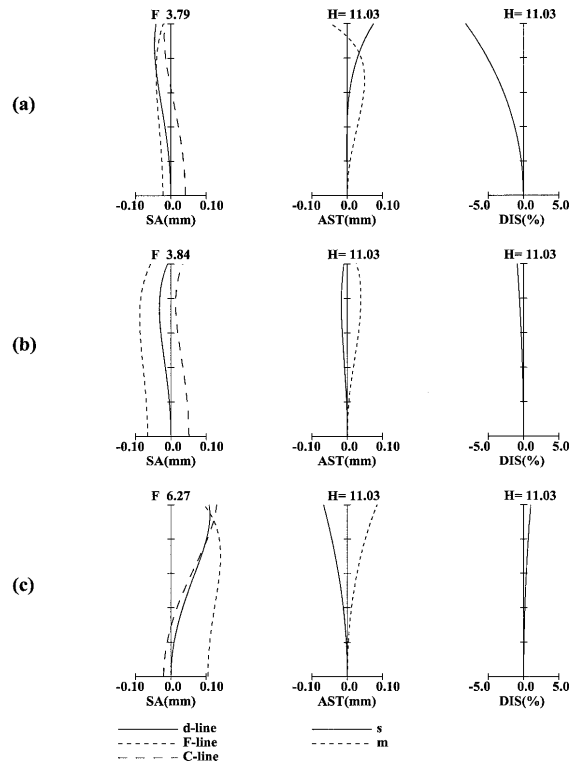
【図 20】



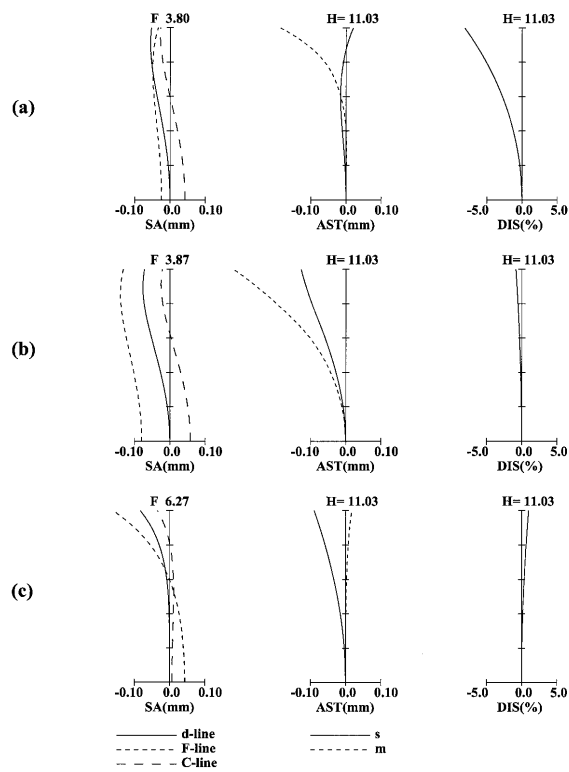
【図 2 1】



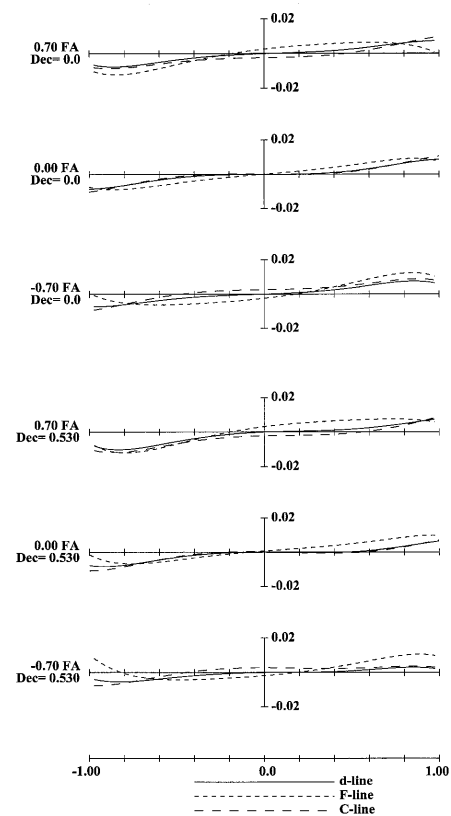
【図 2 2】



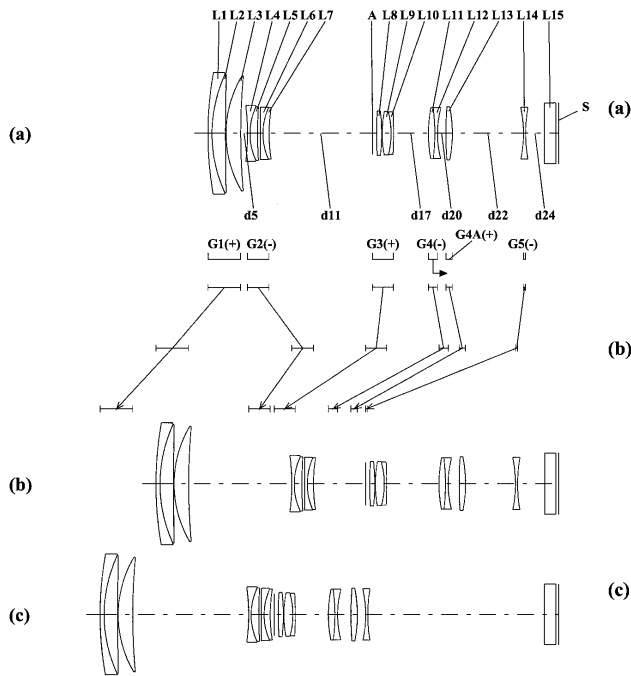
【図 2 3】



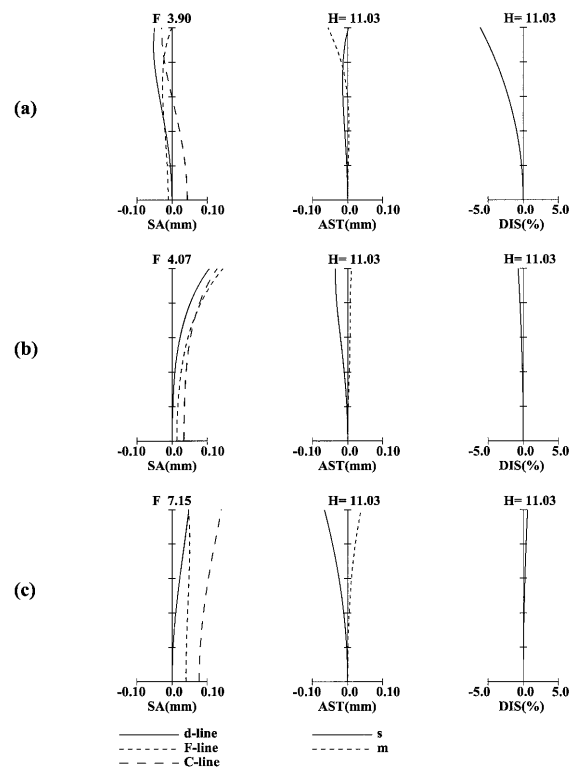
【図 2 4】



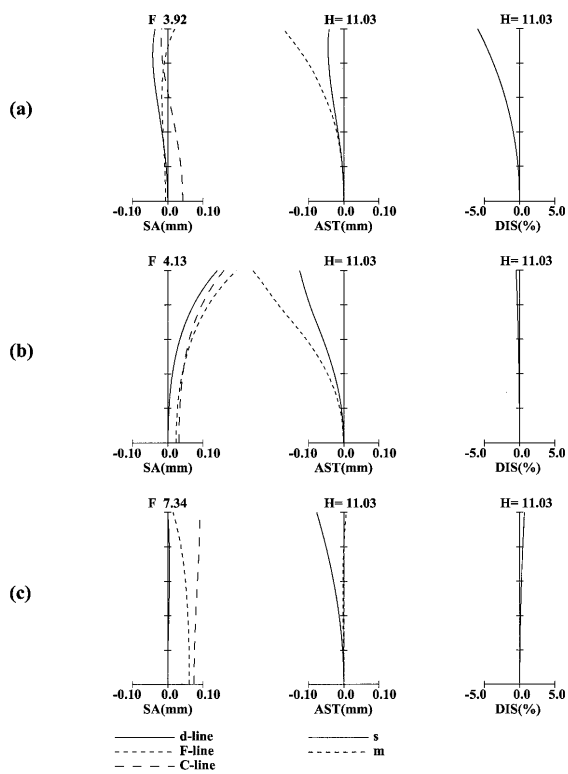
【図 25】



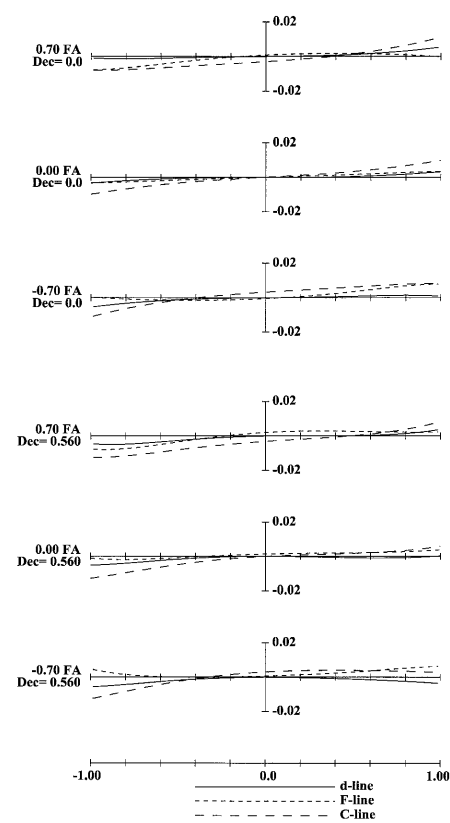
【図 26】



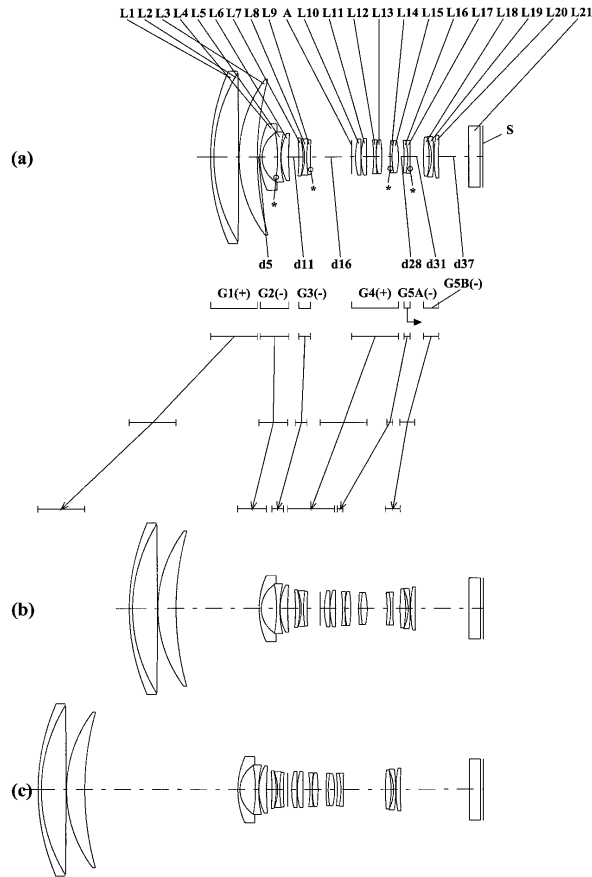
【図 27】



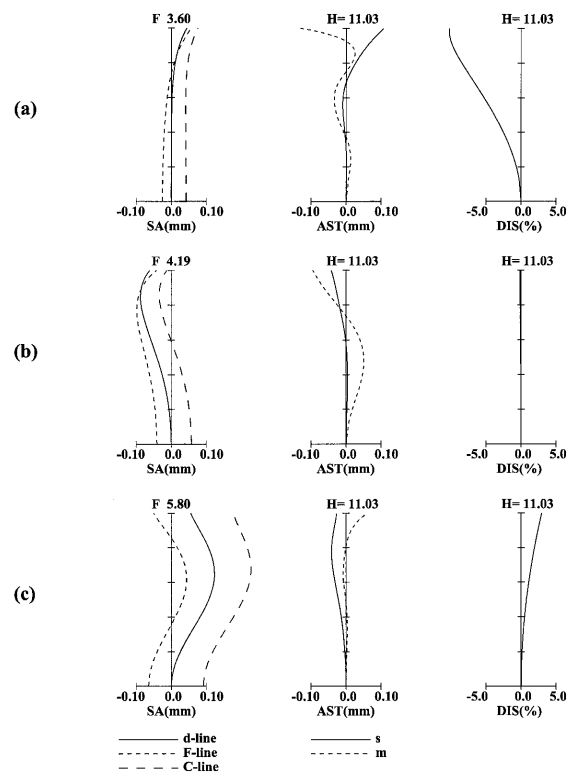
【図 28】



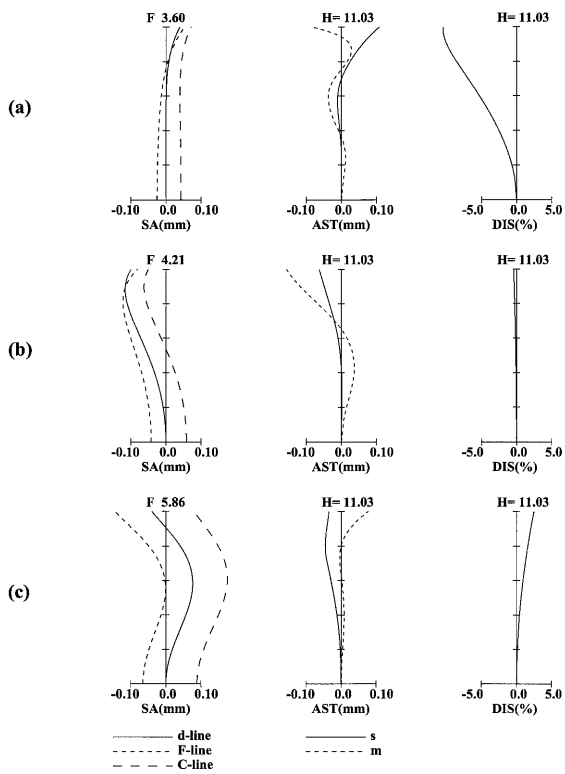
【図 29】



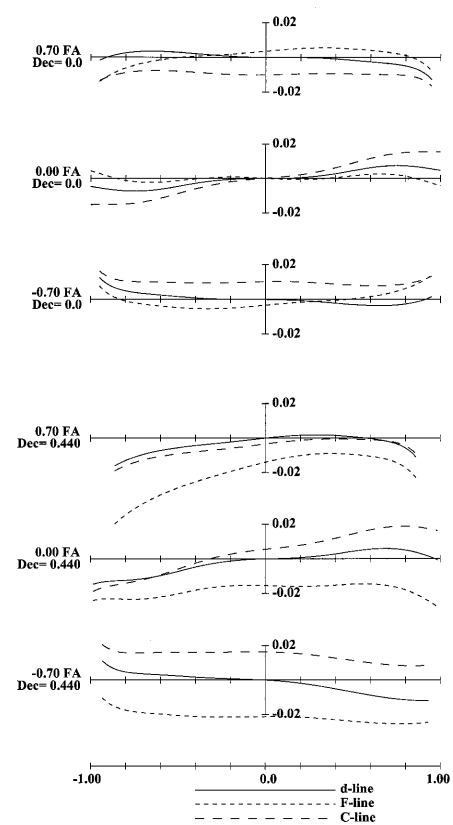
【図 30】



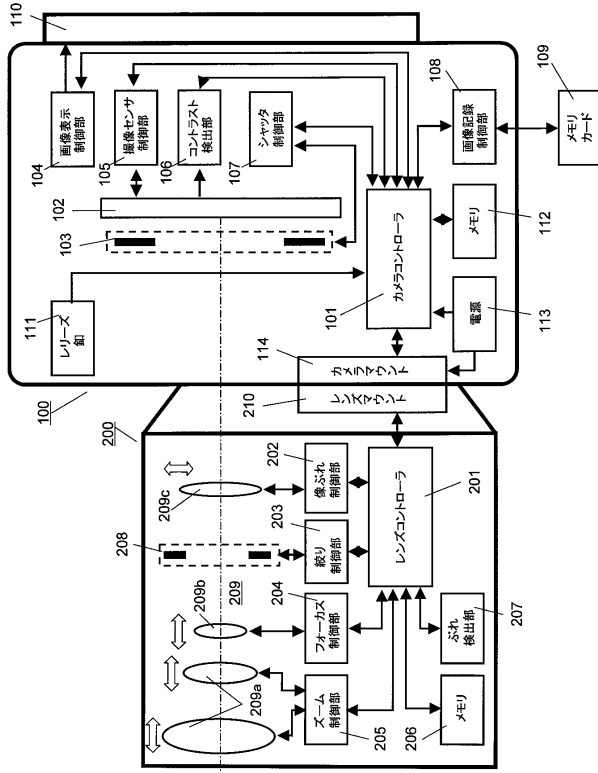
【図 31】



【図 32】



【図 33】



フロントページの続き

審査官 菊岡 智代

(56)参考文献 特開平 1 1 - 2 2 3 7 7 0 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

G 0 2 B 1 5 / 2 0

G 0 2 B 1 3 / 1 8